女學雜誌

第二百十號目次

社説　風流を論す

論説　詩人と風景（雲峰生）○廢娼の精神及其順序（島田三郎君演説）

批評　加藤弘之氏の道徳○みさを（碓氷山人）○普通國文前編（雲峰子）

雜錄　春遊亦平和ならず（華妹寄）○懸賞答文（諸香女史）○豪傑はホームを切要す○貴婦人と貧民○不思議の書を解明す（元良勇二郎）○結婚は人類の大倫○きよめぬ庭○荒庵（テニソン原作）○家の手わざ

小說　野邊遊び

寄書　淨るり節と學校（田中古象）○泣かん乎笑はん乎（透谷）

開書　容貌の事（佐藤てつ女）○交詢

時事　板垣退助君東京に入る○薙刀道○調和青年同盟會○俑を作るもの後なし○慈善有志青年諸君に謹告○廢娼記事

女報　女官の所得税○養育院慈善會○婦人修身會○華族女學校運動會○婦人衞生會○日本矯風同盟會○アッケルマン孃○大坂師範學校女子部○婦人議員とある○女丈夫○ケンナン夫人○女子國會に入る

"Marriage is the mother of the world, and preserves kingdoms, and fills cities, and churches and heaven itself."—Jeremy Taylor.

農學士寺尾熊三　植物學　新版一冊十二錢也

本號には懸賞和歌答詠池袋清風大人の撰に係るもの及び其細評を載す

通信女學第四卷は二百五十葉の大本にして一册三十二錢すでに發兌す

鈴木弘恭大人著　百人一首講義　並製實切　上製一册　五十錢也

四月廿六日發兌　第二百十號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 210. 26TH, APRIL, 1890.

EDITORIAL:—The Pleasure of Imparting Knowledge.

LEADING ARTICLES:—The Poet and the Nature. The Abolition Question and Methods of Movement.

CRITICAL NOTES:—Prof. Kato's "Moral Ethics." "Misawo" etc.

MISCELLANEOUS:—The Pleasure of the Season. The Prize Essay. The Hero and the Home. The Noble Lady and the Poor Man. The Mystery Explained. Marriage, the Foundation of Human Society. A Poem (*Translation*). The House-wife. Facetiæ.

NOVEL.

CONTRIBUTED ARTICLES.

OPEN LETTERS.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百九號目次

社説　安息日

開書　東洋英和女學校凶變の事

論説　廢娼の精神及其順序(島田三郎)

批評　益軒の教育法○小說史稿(雲峰子)○詩人ブラウニング(上)

雜錄　懸賞答文○教育的小說、みどり)○閨秀小說家答○櫻井勉夫人の葬式○樂しまんが爲なり○世の中は○家の手わざ

小說　野邊遊び(ゆかり)

寄書　米國貴府の慈善家「モリス」氏(井上眞之助)○春(清艷女史)○坐右日記の一節○風前雨裡春空老○歌

開書　再び有樂常主人にまいらす(常盤木千代子)○咨詢

時事　櫻散る○三薰三色○外山正一君○宣教師方の女學校○僧侶の議決○脅迫猥藉○夫の凌辱○支那の井上馨君○ビスマーク公○廢娼記事

女報　敍任○美術學校女子部○產婆受驗者○國の基○女遠記○ケンシツト孃○大和の孝女

WOMEN IN JAPAN.

Under Countess Oyama's Auspices, Mrs. Wistar Morris have been able to meet a number of noble ladies once at the Countess' own residence and at another time at the Rokumei-Kwan. There were 18 ladies present the last time all of them ladies of rank and all listened with attention to Mrs. Morris' talk on the subject of Christian religion. Some of them even asked Mrs. Taneda, a Christian lady who acted as interpreter for Mrs. Morris, to stay and explain to them passages in the Bible, a copy of which Mrs. Morris presented to each of her audience. Mr. and Mrs. Morris who have left for Kobe will be back after 3 weeks when Mrs. Morris will hold another meeting with the same ladies.

The lady of whom we wrote the above has just Contributed yen 25 to be used in assisting the Anti-prostitution Cause.

The semi-annual prayer meeting of the Tokyo and Yokohama Christian ladies is to be held on the first Saturday in May, the 3rd at the Kaigan Church, Yokohama.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

第一回和歌懸賞答詠

池袋清風

こたび女學雜誌に掲げたる懸賞和歌出題の目的は我國女子に向て啻に詠歌を奬勵するにあらざるべし必や和歌の進歩を奬勵するにあるべし且將來我國の國詩及文學の發達を謀るの第一歩あるべし予第一回懸賞出題の詠を見るに水邊落花四十首中詠出の儘にして格別の難なきは僅に四首のみ又春月朧々三十九首中には三首許あるも皆平凡取るに足らず今此七首のみを拾ひ自餘は悉く放棄する時は多くの出詠者は失望すべし決して進歩奬勵の方法にはあらざる也そは折角募集に應じて各自應分の才力を竭して詠出し且自善しと許したるを投寄しても褒賞も來らず雜誌にも見えず又いかなる部分が惡しきか之を知るに由なき時は出題の雜誌社は是等の出詠者に對して薄情なるが如く詠者は再出詠せん事を欲せざるに至るが如きも或は無しとせざれば也故に予は多忙中煩勞を厭はず各詠中其斧正し能ふ丈は之を斧正して大概無難と爲し或は雅味を加へ然る後相當の點を施せり然れども亦斧正する能はざる詠多し是等は止を得ずして棄てたりといへども猶一々評を加へて其難を述べたり又或は評を加ふるにも足らぬ詠あり是等は其殊に惡しき辭句の左傍に朱線を引き之を示せりしかして前の七首の如き難なき詠が必しも皆秀逸にあらざるを以て褒賞を受くべき三等の詠にも斧正を及ぼしたり是れ少しく斧正して秀詠ともなるべきを難あるが爲に其儘棄るに忍びずさりとて亦難ある詠に褒賞を施すべきにあらざれば也これ予が老婆心のみ出詠の諸愛姉及看官諸君果して和歌の進歩を望まば幸に予が僭踰の罪を責る勿れ。

懸賞の等級を附與したりとて其詠の眞價を視る能はずそは秀詠多く集りたる時は其中より撰拔の褒賞を受くべき詠は愈秀逸あるべしといへども若し拙詠多く集りたる時は其中より優等を撰ぶも猶平凡の地位に達せざる事あらん即甲回の第一等は乙回の第三等にも其詠の眞價に於ては及ばざる事あるべし是故に予は褒賞三等の區別の外に各詠に優劣點を施して其眞價を標せりされど是も僅に數等の區別のみなれば同點中亦自ら些少の甲乙あるは免れざる也看官之を諒せよ。

批評は詠出の儘の形狀に向て下し優劣の標點は其斧正後の價値に從て施す但評點者は古來億萬の詠を悉く暗んじたるにあらざれば或は古歌に類似したる詠にも誤て點を施し亦類似して斧正するの弊なきを保證せず。

點は趣向一通り聞えて詞づかひに不解、癖難、鄙俗、平凡、重複或は語格に違ひ或は類歌ある等の著しき批難なき詠を標す

點は高尚、優美、有力、新景情、新思想及餘韻を含む等の諸點中孰れか一二部を少しく含みたる詠を標す

。點は秀逸の歌を標す

されど是皆即座の點也若し撰集料に供へんと欲する時は更に熟考吟味して取捨し右最高點の秀逸といへども十中僅に一二を存するや知るべからず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

予は出詠諸姉の參考の爲兩題の詠にして予の記臆上に浮ぶ處の數首を爰に掲け一覽に供すべし

水邊落花

香川景樹

池水底にうつろふ影の上に散てかさある山さくら哉

高崎正風

さかさまに花ぞながるゝ隅田川曉しほやさしのほるらし

清風

大井川千とりが淵の朝風に花のふゞきの寒き春かな

ひまもなくうかべる花をかきわけて
　にほひをむすぶ山の井の水

自評にほひをむすぶなどあまり手を出したり即人爲を以て天眞の領内を侵したれば難なしとせず

春月朧々

詠者不記

近く見えて影は幽かに霞みけり今宵の月夜雨になるらん

香川景樹

おぼつかなおぼろ〳〵と我妹子が垣も見えぬ春の夜の月

税所あつ子

玉すだれかゝぐる袖は見えながら
　おぼつかなしや朧夜にして

清風

大空の霞のふすまうちかづ丈眠るに似たり春の夜の月

我窓の紙戸に影の見えぬまで朧になりぬはるのよの月

第一回懸賞和歌

女學雜誌社

水邊落花

櫻田榮子

第一等

ゝゝ夕月もおぼろにうかぶ故さとの板井の水にちる櫻かな（花ぞちりける）

評詠出の儘にてさまで難なし唯趣向新珍ならねど幽美の景情はあり板井とは柄杓をもて汲む如き淺き井にいひなれたり予は今此詠を斧正したる序に世俗は勿論自ら大先生氣取たる細工歌先生などの未知らぬ調節の高雅なる幽境に立入りて一言すべし抑句調とは一首の上下全躰の詞つかひ相整頓一致するを云ふ即上句が雄爽ならば下句も之に對し下句優美ならば上句も優美の辭を用ふべき也今散るさくら哉とあるを何故花ぞちりけると斧正せしや天然の眞調を識らぬ詠歌者は或はさがむべしそは意義に於て少しの差なければ也又句調にて惡しきにもあらざれば也是上句は景情も辭つかひも皆温和に出かけたり故に留句も温和を以て受け全躰の調節をつけたる也評者の詠に　大井川千とりが淵の夕ぐれに松風さむく散るさくらかなとあるは上句景情も辭つかひも凄涼にして稍雄爽に傾きたり故に必散るさくらかなといはざるべからず若し之に花ぞちりけると受けたらば大に調節を失ふ也其他一句の上も然り鶯のなく音のさけきといふより維新の擧のさかなるといはゞ誠に長閑なる調節となりて下句によくかゝるなり維新前より江戸邊の詠歌者の詠を見るにかゝる貴重の點には着目及はずゆたけきゆたけさなど風折不穩の陋調をムヤミに詠出せり故に江戸歌とて予輩は鄙しめたり猶今日にも東京民間は更なり宮内省にもある大人の詠を見るにかゝる陋弊ありそは唯理屈の趣向のみに注目したれば也若此事をそれらの大人に說かば必唯々諾々點頭して以て自家の說とせんも其詠を視れば其識らざるを知る蓋天眞と人爲との區別は一言の教喩にて悟り得べきものにあらざればなり

同

春田しづ子

第二等

ゝゝ大井川ちとりがふちに波立ちて（影見え）高ねの花ぞ亂れそめたる

評波立ちては影のつもりならんも曖昧なればかく斧正したる方景色よく目に見ゆる也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同　中原春の

第三等
、、すみ田川ゆきかふ船のとまの上に雪と見るまでちる櫻哉

評詠出の儀にて少しも難なし新趣向にもあられど實景也

同　馬兄

等外優等
、、大井川汀の水の白妙に見ゆるは花のふゝきなるらん
（井せきにかゝるしら浪のきえぬや）

同　樋田菜

無難ノ部一
、すみた川堤の櫻散りしより波し花こそ匂ひそめけれ（の）

評詠出の儀にて難なし唯趣向新珍ならず

同　つれ子

無難ノ部二
、やり水に二ひら三ひら流れきぬ隣の花やちり初めにけん

評詠出の儀にて難なし

同　松本はる子

無難ノ部三
、隅田川堤の櫻ちりぬめり花の浪よる春の夕くれ
（りしより立こそわたれ花の白波）

評花の浪よる春の夕に堤の櫻がちりたるやう也櫻と花とは此處別々になれり若し櫻がちりし故花の浪がよると云ふ意ならば此言葉つかひにては上下相つかず

同　八重葎の舍主人

無難之部四
、行水にちりてみたるゝ櫻花春も流るゝ心地のみして
（山川の花をさそひて行見れば）（こそすれ）

同　孝水女史

無難ノ部五
、水の上の梅のさきちる春風に花のかをくむ川つらの宿
（さくらちりかふ）

評梅の題にあらず我國にてむかしより唯花といふ時は櫻の事也又さきちるとは宜しからず

同　江崎みさ子

同六
、隅田川岸の櫻を吹風に水の底にも花そちりける
（堤をわたる春）

評下に花といふ故櫻をふくといひてはあまり固すぎる也

同　中村たき子

雪と見し高ねの花もかきいとや
いつか川との浪とこそなれ
（雲）（峯）（さくら）（よしの川岩こす）（の花）

評いつかとは疑の詞也こそなれと直說の決定辭と相應せず

同　佐の子 無名

朧夜
有明の月はかすみて大井川繫く筏に花は落つゝ
（もうかひ）（そ散りける）

評有明の月といひては西天に傾きたる感情あり大井川は嵐山南西に高く聳へて傾きたる月は見えざるべし又留句宜しからず落つるとは容積の大なるもの少數に用ひ小くして數多き物には散るといひなれたり

同　鈴木げん子

春風の
ゆう風に波のあやをる池水に岸の櫻ぞちりそめにける
（織亂）（汀）（花）

評ふたつのにの音いたく耳にさわれり

春月朧々　小笠原つれ子

第一等
、くれかゝる花の匂ひをほのみせておぼろながらに出る月かけ
（はてぬ）（光）（げ）（にほふ）（な）

評月影といへる留句は昔時二條家冷泉家に用ひ足利時代の流行辭也餘程上手に詠ぜざれば歌全躰を陋しくする也

同　竹林荷子

第二等
、咲く花の雲井にかゝる春の夜の月はおぼろに霞みける哉
（間もりくる）（おぼろ）（の影こそゆかしかりけれ）

評雲井とは高き空か禁中に用ふる故此處合はず又花の雲にかゝらぬ月でも朧に霞むは春月の景なれば下句力なし

同　小林なみ子

第三等
、人心花にはれ行春はまた月のおぼろもあはれとぞ見る
（の夜の）（は中々）（也けり）

評月のおぼろとは宜しからず

同　長田とみ子

無雑ノ部　春の夜の
、咲花をおぼろにてらす月かけに霞も匂ふ心地こそすれ
（夜の花盛）

評上句口調穩ならずして下句はよろしき故かく斧正せり月前花とすべし

同　梅田かほる子

三笠山昔もそこか忍ばれぬ春のやよひのおぼろ月夜に

評題意を直接にうけず春夜懷古となれり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百十號
明治二十三年四月廿六日發兌

社説

風流を論ず

世に愍れむべきもの多し、然れども其の身の至つて愍れなるヿを知らず、反つて傲然天下に誇るものほど、愍れむべきものはあらざる也、所云る風流人の如き即はち其の一なり。

抑そも風流とは何事ぞや、支那及び日本の風流人なるもの毎度之が講釋を爲せり、ランプを消して月を見れば風流なるよし、落花の下に一首を賦すれば風流なるよし、妻寒きに泣き兒饑に泣くとき陶然醉ふて太平樂を歌へば風流なるよし、錢の勘定を知らず儲けるヿを知らず世を渡るヿを知らず屢ば人の厄介に爲り乍ら返すヿを知らざれば風流なるよし、若し夫れ日夜營々として職業に勉強すれば無風流なるよし、人の花を觀るとき田畠に肥料を與ふれば無風流なるよし、たとひ何事を爲すとも歌の一つ位ひ出來發句の一つ位ひ詠めざれば無風流なるよし、而して風流の人と云へば乞食を爲し居りても何にとなく殿樣の如くに見え、無風流の人と云へば華族にても自から馬子の如くに思はるゝと云へり、風流氣の有る無しは人を上下するに於て莫大の關係あるものと云へり。

然れども其の所云る風流なるものは抑そも何の用に立つや、之を以て人世を益したるヿありや、一家族を益したるヿありや、たとひ假し他人に及ばずとも其風流人一己にても益したるヿありや、否な〳〵、毫末の益も爲したるヿなし、其の益なき處ろ即はち風流にして風流なるものは常に損を爲すものと云へり、而して之に益ありやなしやなどと問ふは既に無風流の事にして、眞の風流者は敢て如此き事を問はざる由也、蓋し風流は自らを益せんともせず、亦人を益せんともせず、左りとて特更に損を爲さんとするものにもあらず、然れども其何れを好むやと云はゞ、寧しろ損をするヿを以て風流に近しと心得居るものゝ如し。

風流すでに益あるヿなし、然らば何故に風流を可とするか、世上には益なしと云へども而も事の善なるものあり、風流は即はち實際に利益なくして而して道に於て善なるもの乎、然れどもランプを消すヿが道徳に適へりとも思はず、歌を歌ふヿが聖人の責任とも思はず、妻子眷族を困らせ世間同胞の厄介になり生れ出でゝ何んの役をも爲さゞるヿが道徳上に於て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

立派の事なりとも思へず、果して然らば風流は啻に實際に於て益なきのみならず、亦た道に於て善あるものとも思はれざるなり。

風流必らずしも有益至善の事にあらず、然れども若し一身を安んじ自家の胸中自づから閑日月を出さば娯樂限りなけん、人世苟くも樂しみを樂しむことを以て不善となさずば風流を樂しむも亦た一の善樂なるべし、夫れ分もなくメソ〱と泣くよりは莞爾として打笑は寧しろ快ちよきこと也、我は風流なりと言ひて獨り樂しむものあらば、彼の樂しむことを知らずして常に鹿爪らしく窮屈らしき不平を鳴らし殆んど天地の牢屋に在る如く世を墓なむの徒よりは寧しろ優れるに似たり、然れども天下の人饑渇し万民塗炭に苦しむのとき只だ句を練り節を改ためて只管ら文章をのみ製造せんとするは果して樂しき乎、民智進まず國權張らず殖産擧らず民力伸びず國家大危急の時常に歌を咏じ酒を飲み大平樂を吟じて果して樂しき乎、道念廢れ民不德に墮ち國本腐れ天刑將に下らんとするの時、無爲漫然として花を撚ねり香を摘むと果して樂しき乎、如此にして尚ほ樂しくば此の樂しみはすでに不正の樂しみ也、人をして人たらしめ彼をして彼が責任を盡さしむるの樂しみにはあらざる也、然らば則はち此の樂しみを樂しむの故を以て此の樂しみを眞の樂しみと爲すことを得ず、風流にして苟くも如此き樂しみに於て止まらば、風流や決して容し置くべきの樂にはあらざる也。

古來豪傑の士往々風流を以て隱るゝものあり、然れども彼等は始めより意を得て敢て特更に風流を好みたるにあらず、彼等本來多情多血の人物なり、密かに當世に慨し、非常の熱心を以て蒼生を救はんと欲す、則はち万幅の勇を鼓して絕大の救世策を行はんとしたる也、然れども預言者は大率俗世に容れらるゝことなく、彼等は大抵失敗せずに止みたることなし、則はち氣激し情熱すと云へど望み遂に達することなし、反つて一世の迫害を蒙むり多くは困苦艱難の地に陷いる也、此に於てか不平容易く療するを得ず、或は家一族を棄て、山千峯を超え、海万波を渡り、超然世より隱れて、酒に入り、詩に入る也、故に彼等が世に頓着せざるは其の大ひに頓着するものにして、其の世事を談ぜざるは之を談ずることの苦しきが故なり、之を以て常に醉へり何んとなれば若し醒むれば再たび世を思ふが故なり、之を以て常に歌へり何んとなれば歌は只だ其心を慰さむる唯一の福音なれば也、彼等安くんぞ初じめより

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

風流ならん、只だ止を得ずして風流に隱るゝのみ、若し彼等一朝志を得るの機ありしならば果然風流を脱却して復た初來の慷慨有爲に反へりつらん、何にとなれば此れ彼等が自然なるが故也。

人もし名利を慕ひつゝ世を改革せんとすれば多くは失敗する也、たとひ失敗せざるとも多くは失望落膽する也、但だ夫れ自己の天職を確信し、安心を人世以上に置き、初より利達名地を度外視して世を改革せんとするときは、其人死すとも尙ほ望を失ふとなし。何んとなれば其の一死は天下に犧牲獻身の一美例を遺したるものにして、其の一美例の增加したるは即はち天下を善導する事業の一歩進向したるものなるとを知るが故也。此故に世を改革せんと欲するの預言者は、果して世を改革し了る迄では死すとも止むとある可らず、中途失望落魄するが如きは未だ其の宜しきを得たるものに非る也。左れば彼の不平の兒となりて山林に隱れ、滿腔鬱勃の氣を風流に托して一世を蕩盡するものは、未だ善の善なるものにあらず、然れども之を彼の譯もなく風流を氣取り、初めより風流を天職の如くに心得て遊びくらすの愚人に比するときは、優ると天の地に於けるに均し。

夫れ如此き風流は極めて卑しむべきもの也、若し遊び人を無用とすれば風流人は即はち無用の人也、若し惰け者を不良の徒とすれば風流人は即はち不良の人也、然るに今の風流者は純然たる遊び人、惰け者なるにも關らず、世人の皆な之を優待するは何の故ぞや、世に食客ほど惡れむべきものはあらず、然れども食客にして尙ほ憤發するとを知らず而もエラ相に大言暴語を吐きて日々遊び居るものあらば一層可愛相なると也、蓋し風流人なるものは宛がら天下の食客の如し、然るに自から生意氣の事を申し國の米を食ひつぶし乍ら反つて恩人を俗物なりと嘲けるなど不埒至極の事と云ふべし。

然るを此の不埒なるものを反つて善きものゝ如くに思ふは、蓋し封建制度の遺弊にして貴族的の臭氣尙ほ骨髓に遺るものと云ふべし、昔し貴族は百姓の膏血を啜り乍ら花月宴樂に遊び暮せしものあり、之れ人間の油虫にして斯あらんとは男子の恥づる所ろなりと云へども、其言ふ所ろを聞けば、何如にも優美に、其歌ふ所ろを聞けば何如にも高雅なりしかば、則はち如此き貴族等の言行を以て優美高雅の事とし、土を堀り米を作るものゝ言行を以て下等なるとし、遂に遊ぶとと高尙と、勉强するとと下等なるとを混同し、働らくものは奴

隸あり、遊ぶものは自主の人なりと解し、一轉して彼の天下の食客、風流人を以て優等の人種なりと心得るに至れり、誤謬何ものか之に及かん。

吾人嘗て百人一首一夕話を讀む、昔日の歌人皆な惰け者なり、又嘗て畸人傳を讀む、當日の奇才子は悉とく氣違ひ也、あゝ人間の正大なるもの安くんぞ如此ならんや、風流それ何事ぞ、吾人今の世に於て何の時か遊び戯むるゝの日あらん、歌ふものは宜しく眞理を歌ふべし、文を作るものは宜しく道の爲に作るべし、樂しむものは宜しく働らく爲に樂しむべし、亦何の暇あつてか優々漫怠の餘日あらん、カーライル曰く、歌人よ、汝ち何故に歌ふか、若し世に告ざる可らざるの事あらば何んぞ直ちに之を告げざる、汝ち夫れ何の間あつて之を歌ふとを爲すと、彼は能く詩歌の功德を知るもの也、然れども尙ほ似て非なるの歌人を惡むと如此し、吾人豈に亦た風流に多少の効能あるとを知らざらんや、但だ夫れ風流を以て職業の如くに心得るものに至つては、愍れあると乞食よりも甚はだしく、惡むべきと泥棒よりも甚し。

然るに近時二三年の變遷を見るに、風流人續々と増加するあり、昔しの風流人は大抵三十以上なりき、然れども今の風流人は高等中學を未だ卒業せざる以前より既に風流に迷醉するあり、彼れ一二の小說を作り、俳諧一つ二つを詠じ、忽ち天狗となりて風流に脱化し、衣服の好み則はち一變し、身の廻りの器物凝らずと云ふとなし、手紙を書くにも、話しをするにも、歩にも、坐るにも風流を氣取り、今にも「古池に」と言ひ出し相なり、而して彼等もと愚物にあらず、非尋常の英才を懷きアッパレ國家の爲になる人物にてあり乍ら、早く文字を知り些と計りの文章詩歌が出來るによりて遂に片環になりたる也。

あゝ少年よ少年よ、日本國の大運命は實に足下等の言行如何に關するとを知れ、あゝ少年よ少年よ、公等何んぞ同胞を棄てゝ無用に怠慢する、日本國の盛衰興敗は君等の一進一退に關するとを知れ、あゝ少年よ少年よ、吾人は兄等が靈魂の目さめ獨立するの日を待つ、あゝ少年よ少年よ少年よ少年よ。

論說

詩人と田舍の風景

雲峯生

山岳聳然として中空にあり流水潺々として脚下を行く綠松青樹相間つて森を成し日光影うらゝかなる所鳥梢になき松風音靜かなる時芳花樹間に匂ふ朝は茅店の鷄聲に起き夕べは山寺の疎鐘に宿を求む晝は孤杖に憑て山河を拔涉し夜は夢魂天外に馳す或は孤村の夕牧童の笛聲淋しき頃獨り故鄕の天を望まば懷舊の情胸に溢れん僻落の朝茅簷の烟穗寂たるの時俯仰天地を觀察せば萬感腦底に集らん春櫻散ずれば杜鵑青山になく秋紅辭すれば白花寒梢に咲く水盡れば山現はれ平原極まれば村落出づ見る者として風致なきはなし天地の景色何ぞ擧けて盡す可けんや斯る風景に富むの宇宙に生を享くる者將た如何すべき」萬人生れて詩想を有す故に天地の美景佳色を見て佳美を感ぜざるものなし若斯く感ぜざるあらば天賦の美質を損せしなり尋常普通の人ならんには必らず感ずる所あるべし人世至要の快潔の樂は此感情より得來る者多し世人が其境遇に從ひ時期に應じて適宜に詩想を養成し雅味を發達せしむるの必要豈多言を須ひんや然れど苟も詩人雅客とならんと欲する者は殊に詩想雅味を養成するを務めざる可からず人較もすれば輙ち曰く詩歌は自ら樂み人を喜ばしむる者なりと、若此言の如く喜樂を得るに止らば詩歌は實に卑賤の者にして人喜んで讀まずんば遂に存する事なかるべし詩歌の性質は決して斯る者に非ず必らず高尙の目的を有し獨立して存すべき者なり人の好惡によつて存廢すべきに非ず然れば或人は云へり。

In poetry languagei s some thing more than the vehicle of thought; .... if there is a beauty of use, there i often a higher use of beauty.

詩歌の高尙なるべきは覩易き所とす詩人の理想高く精神潔くあるべしと云ふは即此故なり蓋し源淸からずして下流の濁らざるものなしヨシ萬卷の書を讀破し蓋世の博識を貯ふるとも若理想卑近に精神惡俗ならば決して大著を爲す能はず世の詩人たらんと欲する者猥りに字句の並列に勞する勿れ。

西洋の詩人は高尙にして東洋の詩人は卑俗なり彼は自然に詩想を有す是は細工的の詩を作す一は天眞爛熳なり他は補綴拙惡なりされば人或は云ふ西洋の詩人は其作る所の詩文に依て其人物の如何精神の高下理想の淸濁を判するを得べし獨り東洋の詩人に至つては其著作を見れば語麗はしく句美なれども人物は俗にして理想は卑しと誠に然らん、然り西洋の詩人は理想高く精神淸きが故ゑに其詩高尙にして一讀人を動かす

惡者其心を改め懦夫爲めに立つ、或は人をして喜ばしめ或は泣かしめ或は晴天に霹靂轟あり雲なきに雨るあり大地爲めに動き鬼神爲めに哭す其文勢語氣眞に驚くべきものあり其世を導き人を化するの功ある偶然に非ずと云ふ可し東洋の詩人は大に之と異る其精神理想高尚ならざるが故に其詩の語句に勢力なし之を詠吟するに甚美麗なるものあり然れど其美なるは尚地上の落花に似たり風一度至れば飄然飛で形跡を止めず其麗なるは恰も水上の紅葉の如し水誘へば漂々流れて影だに残らず讀過して其心上に及ぼせし影響如何と顧れば茫として亂雲の中を過ぎたるが如し世道人心に益する所少なきは固より言を待たざるなり人若詩人たらんと欲せば乞ふ東洋古來の詩人に傚ふなく須く高き理想を抱き善き精神を養へ。

ミルトンは十歳にして詩を作りシルレルは九歳にして才英顯はれしと云へば非常絶凡の大家は天の生ずる所自然の才能を有す然れども一概に然りと云ふ可からず或は勤學の功を積み或は精神を養ふて遂に希世の大人となりし者素より少なからず然れば人苟も大家とならんとせば亦自修自養する所なかるべからず自修自養の道如何素より千萬の方法あるべけれど最も功益あり最も欠くべからざるは、風景 殊に閑雅幽美なる田舍の風景を觀察するにあり即ち旅行して或は山水の景を眺め或は村落の風を察し以て詩想を養ふにあり此故にバイロンはスペーン、トルキイに旅して彼名篇(Childe Haolld's Pilgrimege)を作れりスコットハトゥイードの僻村に居を移して(The Lay of the Last Minstrel)の傑作を著はせりゴールドスミスは夜々孤笛を鳴して單身歐土を踏み以て彼の詩想を養ひたり思ひ見に彼が異域の客となり或は破窓燈影寂たるの時荒村の茅屋に夢を結び或は寒風肌を襲ふの夕枯草露冷やかなる所に杖を止めて休ひたりし事を彼にして此旅をせずんば彼が名聲の後世に轟く事なかりしならん之を我國の詩人にしては山陽、竹外の徒亦諸國を流浪して詩想を養ひしを見る、彼等が青鞋を穿ち菅笠を背負ひ單身孤瓢を携へて千山萬河を跋渉する所なかりしならば恐くは彼等は詩人として今日に記臆せらる事なかりしならん其他東西兩洋幾多の詩人雅客苟くも大家名人と呼ばるゝ者一人として旅客たらざりしものなし東洋詩人の理想の高からず精神の清からざる實に彼等が之を養成するの方法足ざりしが故あり詩想を養ふの方法斯の如し是余が詩人と風景と題して一言する所以なり我國未だ詩人の大家出ず今後早晩出べき者あらん余は確

く之を信じ一日も速に出でん事を望みて一言す。

如何なる秀才英質の人と雖も黄塵萬丈の内に在り混々世と濁り俗と交はり時に筆を採つて文字を羅列するも到底詩を作すべからず數年來我國の文學中最も盛に流行せしは小説なり然れど今日は葉落ち木枯孤城落日の姿と云はざる可からず是より起るべきものは必らず詩ならん　苟も詩人たらんと欲する者宜しく自養自修すべきなり絶景佳色天地に充つ　須く俗塵の外に卓立して以て眞の詩人となれ

松樹茂り芳草生ふる所風静かに氣清き時大宮溫泉樓上の東窓に於て偶ま感ずる所を記す四月十七日

廢娼の精神及其の順序　（其二）

島田三郎君演説

是から私は前段に立戻りまして長谷川君の評を致します（謹聽々々）。則ち其の論旨とする處は「男子たる者をして充分に家妻を持たせると云ふ事が出來んから、是れが爲めに公娼なる者を設けて言はゞ毒を以て毒を補ふの方便で有る」と申されました。私は是れに向つて一の論斷を下さうと思ひます。人間の情慾の發達の場合は男にのみ有つて女にはない者か……、女の人は社會の制裁が強いからして、左樣なる方便を設けずして權衡が取れて居るでは御座いませんか、（喝采）又如何なる地理書を見ても女の爲めに怪しからん處を設けて有ると云ふ事を見ません。只平賀源内が戯に書きましたる處の風來仙人傳と云ふ書に、一人の男子が女嶋に吹流されて、遂に怪しからん處を立てたと云ふ事が有るが、箇樣の戯れの書を除いては万國未だ女の爲めに左樣なる怪からん物を設けたと云ふ事は聞きません。シテ見ると社會に制裁を除いて、人間を只氣息の通う丈けの動物と認めた時の議論としては、彼の御說も至極適當なれど人間を人間として見た處の議論には私は當箝らないだらうと思ひます（大喝采）。

是れに就て一ツ奇躰なる所の推測が出て參ります。若しも箇樣なる者を必要と認めたなら今申したる通りの不都合が一ツ……モー一ツは全躰の人々に健康を與へ、快豁ならしむる者ならば、是れを有用の制度としなければならない、而るに之れと反對に世の中の人が論鋒を設けて是れは怪しからん事だ」と申した時は、「左樣なる怪しからん者では無い有用の者だ」と云のでありませうか、若し一方に於ては是れを賤みながら又他の一方に於ては之を賤むと同時に必要の者だと申しましたなら其の論鋒は全く矛盾して居る者と考へられます。して見ると長谷川君の頻りに論じて居らるゝ處は生理的よりも必要上よりも、以て道理有る者と認める事は出來ません。モー一ツ或る人の調べたる統計に據て御咄し致しますが、箇樣の怪しからん處に遊ぶ者は思の外に學校の生徒抔に寡くして、しかも儼然たる一戸を持て居る處の、立派なる既婚の人が多いと云ふ事を聞きました。是れ全く社界の制裁が薄き處から、遂にそう云ふ時代の過ぎたる人が往く樣に成つて、却て存娼論者が認めて以て、此の人には必要なりとしたる處の、學校生徒青年者流にあらずして、昔しの慣習の存して居るのに見倣ひ少しも耻る事を知らないからで有る。此の一點に就ても反對論者の議論は少しも成立つことは出來ない。又傳染病の性質を論ずれば、是ハ他の傳染病と全く其性質を異にして居ります、又法律ハ少數人の爲めに計らずして、多數の人に注目しなければならない、而して此の傳染病たるや人を撰まずして來る傳染病では無い、今日衛生家が防毒を必要なりと云ふが決して關係の無き者に傳染する者で無い、耻ぢて避け畏れて近づかざる樣なる者に及ぶ所の病でない、必ずソレに遊ぶ人にのみ傳染する病だから、社會一般が政府即ち社會の代表者を賴んで防で貰はなければならないと云ふ、事實とは違ひます（喝采）。幸ひなるかな此の傳染病ハ人を撰まず襲ひ來るコレラ病等とハ全く違い自ら省みて左樣なる處に往かない人には傳染せざる病で御坐いますから、何も彼の少數なる處の人の爲めに、法律迄設けて氣を揉まんでも、此の區別は判然と諸君が認めて充分各自に警戒を立て得らる、事ならんと私は思ひます（大喝采）。

モー一ツ私は餘程に緊要の道理を持て居ります。ト申すのは此の娼廓に陷る處の人々の有樣を、能く考へて見て貰はんければならないと云ふ事です。社會の制裁が弱い時は自ら其の害惡に陷る者が多い、此の事に就ては東京公論の昨年の紙上に公けにした、金龍處士と云ふ人の文が有ります。此の人の調べは、即ち本論の善い參考に成ります。ソレは何うかと云ふに現在彼の遊廓に陷る娼妓は、是を自ら直接に身を陷れる者は三分で有て、多くは周旋人が諸所を徘徊してそれに誘導られる者が七分で有ると云ふ事が、しかも箇樣なる場處に居る人から出た手簡だと云ひて有ります。

「方今西京大坂名古屋を初めと致し岐阜三重新潟出雲等より出稼致候婦女大畧三分通りは依賴致し候者に有之候得共其の七分通りの大數は周旋人より誘導する者に有之候扨其周旋人中に於て奸惡なる所業の極所を聞及候處左之通りに有之候」

是れは東京の吉原の中に居る人が、事實を探つて得たと云ふ、金龍處士と云ふ人の處に來た書簡で御座います。又其計算書迄載つて居りますから、今其の計算書の大畧を讀めば、

「婦女周旋人の手にかゝり地方より東京に出稼致すことに相定り其上は樓主と出稼人の示談如何は差置き周旋人は出稼人の親元に對し前貸金何程と仕切り先づ手附金として其の內の何程かを渡し於是書を携へ強て該件の部理代人の委任狀を取り乃ち出稼人を引て出京致し着京の上都下の樓主と談じて最初國元出立の節親元にて仕切りしよりも多額の金員を借用し此の內より最初國元にて仕切り金高を引きたる餘分は私に之を貪り取り歸國の上親元へは仕切金高丈けを相渡候（委任狀あれば餘金は周旋人の懸合纔なり）且ツ周旋料として仕切金高の一割乃至一割半を取め其他種々の名目を以て貪として仕切金の內を缺き取り出稼人の身上には却て少額を給し周旋人の手に六分以上を吸收するの不都合有之候今明瞭ならしめんが爲めに假りに仕切金百圓に對する計算を左に記し候實に驚くべき儀に御座候

記

出稼の際親元仕切金

一金百圓

一金十五圓　最初渡置きたる手附金を差引

一金十五圓　周旋料として一割半を收む

一金四圓八十二錢　假りに濃州岐阜より東京吉原迄として出稼婦女一人分舟車賃其他道中宿泊諸費

一金十圓五十錢　出稼婦女都下滯在宿泊費
但し滯泊三十日間の見積り　一日三十五錢ヅヽ

一金九圓六十四錢　地方周旋人往復舟車賃其他道中宿泊費用

一金十圓五十錢　地方周旋人都下滯在宿泊費

計六十五圓四十六錢

差引親元へ渡分

一金三十四圓五十四錢
右の手付金十五圓を加へ出稼人手取金總計

一金四十九圓五十錢
右之通り周旋人の爲めに消滅する金額は仕切金の半額に出で候

一　道中並に滯在中の宿泊は汚穢なる安泊等に宿らし粗食を食はしめ扨其計算には普通旅人宿の宿泊料を收め其間の金額を利し候事是亦餘程の事に候且つ樓主よりも金五圓を周旋に與へ候

一　出稼婦女二人以上同行引連れ候節は其費用は頭分に割掛候こそ相當に候然るに同行婦女五人有之候へば自分の入費は總て五人分を收入致し四人分は徒手にして丸取致し候

斯の如き調べで御座いますが、是は現在其の場所に居る者の調べで有るといふからして、確實なる證據と私は思て居ります。

凡て世の中も段々に時代の積るに隨つて、外形上は變はつて往きますが、中々內部は變りません。既に娼妓の如きも、舊幕時代には純然たる人身賣買で有りましたが、今日に至ては人身の賣買は法律が許しませんから、其の外形丈けは各自の契約の如くにして、所謂る樓主は只座敷を貸すのみで、娼妓が之を借りて其處に出稼して居る樣に成つて居るが、其の實は右に述べましたる如き害惡が世の中に成り立つて居ります。此に於てか都下の事情を知らざる田舍の人々が、彼れを以て左程迄の者とは感念し居らざるも、局り社會の裁制の薄い爲めに、或は出世の種にも成らうかと（大喝采）親子の愛を割いて、再び足を脫ぎ離き此の怪しからん處に沈みて顧みない……其の內部に於ては少しも舊幕時代と異つて居らないと思ひます（喝采）而して其の者の中には、未だ甚だしく惡習の附かない人で唯一時の誘ゐに乘せられる者も有るが、密娼は自ら惡を爲すを知る所の人々が、身を放埓した末に働くので有ります。然るに此の密娼には更に羈絆を持て居りません。獨り羈絆の下に成り立つて居る者は、公娼許りで中々此を脫して平人になるとは六ケしゐ金を借りる丈け年限は延びるといふ譯で有ります、豈憫むべきの至りでは御座いませんか（ヒヤ〳〵）然るに倚だ一層憫むべき境の者が御座います、承つて居りますには、昨年磐梯山の破裂の時に、其の身（娼妓自身）は殆んど人間一般の格を得ざる墮落の姿を以て居りながら、却て罹災者に金を施すと言つて廣告に出して居るが、是れは自ら我身の耻づべき境遇を知らず、一方から見れば火山の罹災者に比して倚ほ氣の毒なる自分と、道德上の擯斥を受けて居りながら、矢張り一般の人間と同樣なる、否な榮曜なる位置と心得て居ればこそ、箇樣の事を爲すので有ります。斯かる者が我が同胞姉妹の中に在るとは、實に憫むべきの事實では有りませんか、然るに社會有識の者が未だ之を憎ます、却て之を唱へ囃すと云

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ふ樣なる、誠に緩慢なる心を懷いて居るから、知らず識らず實地の奴隸が澤山に此の世の中に出來て來ると言はなければならない(大喝采)。凡そ、世の中の人の見解に依ては、其の方向は變る者だから、彼の憫むべき婦女をして「此れは實に耻づべきの業で有る」と云ふ事を知らしむる迄に輿論が起つて居たならば、自ら耻ぢて已れの名前を世の中に掲げ出し、此の榮曜を貪らうと云ふが如き思想の成立つ筈は無い否な已れの身は火山の罹災者よりも一層不幸の身の上だと哀を世の中に訴へる樣に成らなければならない。故に箇樣なる思想の成立つて居れば居る程、早く輿論を喚起して之を廢さなければならないと云ふ事は、此の社會に立つ者の專ら盡すべき所と思ひます(ヒヤ〳〵)。

斯く論じ來れば或は前途の事の樣に成りますから、以下實地に行ふべき手續を諸君の前に論じます(謹聽々々)其の前に少し辨駁を致して置きますが、先日私の演說に對し議論を致した人が有りまして「私生の子と云ふ者ハ統計に出て來ない、是れを引取つて正妻の兒の樣にすれば解らない、然らば和歌山縣に私生の兒が少くして公娼が無いと云ふのみの事實を以て、他の縣を比較して言ふ事は出來ない」と云はれました。左りながら若し私生の兒を隱すと云ふ點に成て見れば、何も同じ事で和歌山縣に限つて多く匿して屆け出ないと云ふ理由は無いから、私生の兒を匿すのは、和歌山縣も他縣も同じだと認むべきは當然の咄しで有る。然らば則ち公娼の無い處は、姦通私通が尠ないと云ふ證據を和歌山縣の統計に據つたからとて、何の不都合が御座いませうか。故に私は矢張り確說と信じます。若し是れに反對仕樣と思ふたならば、和歌山縣に限つては私生の兒を多く隱すと云ふ反證が無ければ、更に私の議論に弱みを感ぜん事と思ひます(ヒヤ〳〵)全躰私の議論は、局り社會の制裁が強くならなければ世の中の害惡は除く事は出來ん、公娼を法律で許して置くのを、止を得ずして置かなければならないと解釋し、又必要だと解釋するが如きは、誠に根據の弱い咄しだと云ふの議論です。故に私共の向きも、法律の向きも、社會の向きも、同じ方角にむかつて往けば、隨つて社會の制裁も強くなるから、サウして早く法律で認めて居る事を廢し度いと云ふのが私の論據で御座います。併しながら是は先日の咄しでも申した通り、全國を同時に且即時に廢さうと云ふのでは有りません。是れに就ては只今巖本君の申した通り、密娼と公娼との意義を明かにせればならないと云ふのである。左ればとて密娼を世の中に行はふと云ふのは私の議論では無い、取締り得る丈けは充分之を取締り度い、けれども假令如何なる事が有つても法律が見る事が出來ない者を、強て是れを見んとすれば、却て社會に風波を起す事が有ります故に其外に現はるゝ者を制するに止め之を制するには此の世の中の事を取締る處の行政警察の有る以上は、其の邊は決して心配が無いと思ひます。

斯くても尙ほ此の密娼を取締る事は、迚も及ばない、公娼を無くなしたら、大邊に密娼が世界に害を及ぼすと云ふ事も有るかも知れないが、私はそれ等は決して差支へないと考へる、何となれば今日の如く公娼が有つても、密娼が盛んに在るでは御座いませんか。若し又隱してある事は、之を取締るの職分では無いと言はるゝならば、此の事に就ては隨分政府の權限論も起るで有らうと思ひます、併し私は决して左樣な事は申されまいと信じて居ります。何となれば政府には既に廛頭に列れて有つた裸体畫なだにも、一般に禁止して仕舞つたでは有りませんか。斯の如く書いて人々に賣り與へる所の繪畫ですらも、公然と廛頭に掲げて居るは、政府が風俗に害有るとして禁するでは御座いませんか、又斯の如き寫眞でも何でも醜体と見なしたる者は一切賣る事はならん、其他斯の如き怪しからん文書を發刊する事も許さないでは有りませんか、是れは何故で有るか、又それが殘らず是を禁じたからとて、更に無くなつて仕舞つたと云ふ事は出來ないが、併しながら、人をして是れは惡るい者だと云ふの感想を抱せる事は出來る。して見れば公娼を廢する時は假令其の害を悉く除いて仕舞ふと云ふ事は出來ぬにした處で、あれは惡るい者だと云ふの感想を與へる事は出來る。而して其の禁じた時に、密娼が有つて風俗を害すると認めたならば、警察官たる者は充分之が取締りを爲すべき者で有る。又其邊は取締り得らるゝ所で有らうと思ひます(ヒヤ〳〵)隨分文明國にも、警察官の認めない處の者が徘徊して居る事も御座いました。現に蘇格蘭の「グラスゴー」では數十年前には、夜に成れば燈光赫々たる大廈に裸體婦人の形も見れた事が有りました、此の都府の人民は、此の社會の制裁と云ふ者を強くして、警察官に助けを與へ是れを壓倒致しましたから、今日は又左樣なる者は無くなつて、現に「グラスゴー」の大學に居る所の書生等にも、著しき善き結果を與へたと云ふのは、確かの證據で有ります。それでも未だ內部には或は御座いませう、併し其の內部は最早法律の逮さない所で有るから、法律が已むを得ず是れを見遁なければならない、只に裸體畫を禁ずるが如く、醜躰の寫眞を禁ずるが如くに、政府の人に世の中の人が之を征伐せしめて差支へないと思ひます(ヒヤ〳〵)。

そこで此の廢し方に就ては、私は所謂る實際問題に移るが、是れには世の人は少々議論が有る。尤も此の議論に就ては大異議は御座いませんが、左りながら數百年有つた處を、一時に擊ち挫いたら何うで有らうかと云ふに第一に群馬縣の事が有る、彼の群馬縣では其の實五年以前に前の縣知事楫取君に向つて「娼妓を廢して

吳れろ」と云ふ建議をなし、今より以後娼妓を願ひ出る者を許可せず、貸座敷を營業せんとする者が有つても是れに許可を與へられない樣に、左すれば今迄の娼妓は自ら滅するといふ事を建議しました。故に然らばさう仕樣と云ふ事に成つて居つたが、併しながら世間の風潮は一定の上に有らんで、一昨年に至て「是れは必要で有る」と云ふ者が有つて、又々娼妓を許可する事に成つたから又「イヤ是れは惡るい」と云ふので遂に昨年の大運動が有つて、局り其の事を縣會に掛け多數決を得て當時の有樣に成つたので有る。全躰其の當時に於ては「已に無くなるべき者と決して居たのを、是をしも又存して置かうと云ふハ實に憂ふべきで有る」と云ふ點から世の中の人が早く是れを破らうと云ふ多數の認めが就いたから、斯かる大運動もなし得又左樣なる處に立入る者も自然に無くなるのです。然るに必要で有ると云ふ觀察で居る處では何うしても左樣に盛なる感念力を惹き起す事は出來ない併此業を恥と思はず世間も亦格別非としない時期に一時に全國に禁止したら反動の弊が起るハ必定なれば私も一時に全國を擊破ると云ふ說にあらずして、各縣々々に此の順序の熟した處は、互に是を打碎くが宜しい。又廢せざるにした處で是れから始めて這入る者は許さないが宜しい、斯の如くして漸々社會の裁制を强めて往つたならば知らず識らずの中に世の中に禁止の實行が成り立て往く事が出來る。故に私は今申した通り能く前途の見据えを定め、法律も又同じ樣に見据えを定めるを必要と思ひます。

私の意見は前申したる如く、各府縣に任かして漸々其の順序を追ふて往たならば、數年を期して廢める事が出來るだらうと云ふので御座います。此の事に就ては近來五大法律學校の人々が、法律討論會を開いた時に各府縣會は是れを議する權利あるや否やと云ふの問題で有つて、其權利は無いと議定したと云ふが是れは何うして斯う成りましたか、現在各地で遣て居るのは廢するといふ建議案を議決するので是れは府縣下の利害を建議するを得るといふ明條によりたる話で慥に府縣會の權限内で有る。又是れを實地に行なふて認可する事若くは認可仕ないと云ふ事は、府縣知事の權限内に御座いまするが、認可に至る迄に利害の有る所を演べて議論する事は、是れは府縣會規則に許して有る、今迄各府縣に於て遣つたのは是れ建議を議決すると云ふのである、又各縣會で議決して廢すべしと云ふの建議に依て、其の權力を執行するのは行政官の權利で御座います。民情の如何を考へて府縣會が議決するのは、更に不適當にあらずして、正に爲すべき處の權限内の事に少しも疑はあり升せん府縣會規則を一讀したらコンナ討論は爲す筈はないと思ひ升(大喝采)。

シテ見れば實地の遣り方に就ては、今の樣に爲し居るならば彼の存娼論者が懸念する如き事は少しも有るまいと思ふ。實地問題として施行するは府縣知事の權限內で有るから、各地の風俗に推し其宜しきに從つて、是れを斷行したならば、必ず數年の後には全く是を廢める事が出來るで有りませう(ヒヤ〳〵)。

ソれに就ては存娼論者の細かき議論を爲した處と、私の議論と能く似て居ります。私の說は第一に全國即時に且一時に打破るにあらずして各府縣にて各自の働を爲し、最早彼樣なる事情だからして法律上打破つて宜しいと思た處は、打破るが宜しい併し其の間に於ては、新に願出る者を許されざらん事を望む、ソして社會の裁制を强めると同時に法律の施行を促し、是を打破る樣にするが宜しい」と云ふので有る。又衛生家の森林太郎君の說は存娼論者の中では一番緻密なる議論で御座います。此の森君の演說は何う云ふ事かと云ふに「獨逸の「ブレーメン」に行はれた方法で一區を限りて賤しき業を爲す者を此に追込み普通の人民と住居を異にし往來を斷つて夜は何時より何時迄の間は通行を許さん」と云ふ擯斥的の議論で有るが、是は賤業者を賤むるの手段だからして、社會の裁制力に付ても我現在の者に較れば大に力あると思ひます。恨らくは醫家の專門の人だから、大層惡病を怖がつて撿査を仕なければならん」「撿査が必要だ」と云ふに御熱心なる處が即ち私と森君と說の異つて居る處で御座います、森君の考へには左樣なる者は悉く警察に追込んで、警察で定則の撿査をしたいと云ふので有るが、又私の考には之を不法の者と做し是れに罰金を科してそれを以て病院に入れゝば宜しからうと思ふ。又其の者が再び犯せば又左樣になし法律はドコ迄も罪視するの精神で森君のは之を見認めて規則として撿査すると云ふ取りも直さず其の營業を認ると云ふ事に成る。是れが則ち論點の違いで御座います。

是れに於て私は存娼論者の中の、一部の人と協議を遂げ度いと思ふのは、箇樣の者をして世の中に働かせるが宜しいか、教育を高めるが宜しいかと云ふは、是れは廢した後でも隨分遣り得る事と思ふ。今存して居りながら是れを遣らうと云ふのは誠に勇氣の無い遣り方で有らうと思ひます。斯の如くんば前途何れの時にか、根據を打ち碎く事が出來ませう、私は斷然六ヶ敷いと思ひます(喝采)。况んや面目こそ違へ、之を誘つて居る者は、矢張り舊幕時代に異らぬと云ふ事は既に先刻も朗讀致したる如き有樣で有るから、何うしても之を打碎く事は出來ますまい。是れより今日の如くにては其の公娼の何時までも絕えないのみならず年々增加すると云ふ證據を擧げて、私の演說を終らうと思ひます(謹聽)東京に於ては

明治二十年の統計が　娼妓　四千五百人
明治二十一年の統計が　娼妓　四千七百四十六人

此の統計表を御覽なすつたならば、此の娼妓の員數は漸々之を增すとも、决して減る者では御座いません。若しも前年に比したなら、倘更增加して居るに相違有りません、斯の如く誘惑し、此の如く束縛され、無智にして是非を辨へざる者が年々增して、廿一年には四千七百四十六人と云へば、則ち一ヶ年に二百以上の人數を增したので有ります。是の勢を止めずして時を見て廢さうと云ふが如きは、恰も堤を築かずして一時に水を搔い干さうと云ふので、水は矢張り其處に流れ込むに相違無いと思ひます(ヒヤ〳〵)。故に私は此の事に就ては、充分なる堤をて置くと即ち以後は之を許可せずと前途を定めて後に之れを搔ひ干すと云ふ樣に致されん事を、存娼論者の中の綿密なる者に望むので御座います。

（完）

批評

加藤弘之氏の道德論

加藤弘之氏の道德論は多く進化主義より發出す、夫れ進化主義を倫理に適用することは、ダルヰンの人類生來論出でゝより以來外國に其人あるを尠しとせず、然れども其論構の何如程迄に信據すべきかは尙ほ今日に殘る一大疑問にして、學者之が爲めに熱論するを至つて熾んなり、加藤氏は日本に於ける此種の硏究者中最良の人なり、吾人平素學の爲に深く之を謝す、時あつてか敢て疑を質すものは其の論の矛盾することを忠告するのみ、未だ嘗て其所云る主義なるものに付きて是非する所ろあらざりし也、何んとなれば此主義は亦た吾人が眞理の一なりと考ふる所ろにして敢て加藤氏と意見を異にするものにあらざるが故なり。然れども吾人は進化主義を是とすると共に亦有神論を是とす、此點に於ては加藤氏と意見を異にするのみならず更に加藤氏の意見に矛盾あることを此點よりして發見し來るもの多し。要するに氏が所云る進化主義に至りては吾人敢て不同意を述べず、只だ其の極端なる進化說を奉じ乍ら時に「不得止の不眞物」なぞゝ言はるゝとの極めて奇怪なるを告めたるのみ夫れ氏が「不得止の不眞物」と云ふに至りたるは社會の爲に祝すべし、然れども學理硏究の爲には頗ぶる惜しむべきの事とす、何んとなれば氏は如此き矛盾說を吐きつゝも尙ほ極端なる進化說を以て唯一の眞理と妄信し、論理上曖昧なる安心に踞して自から休むとあるが故也、吾人が再三疑を質したるは則はち之が爲め也。

然るに氏は、天則第二編第二號に於て「余が屢ば論述する道德主義に就て世間の駁論家に希望す」と云へる一篇の督促を揭げ、反つて數則の疑を反問ありぬ、吾人の如きは氏が道德主義を駁したるものとも記臆せねば今ま之に向つて應答するの責任なきものと云へども、既に前述したるの因緣あるを以ての故に、左に些さか畧辨すべし。

一。云く、世間の論者は兎角虛心平氣を以て之を聞かず、唯其自ら尊信する所ろの本尊樣の主義に異ふるの故を以て之を駁擊すると多しト。而して氏は之を嘲笑せり、是れ尤も思はざるの甚しきもの也、氏はダルヰン等の進化主義を以て其の本尊樣とし、此の本尊樣に逆らふの故を以て他を斥くるにあらずや、古人曰く人各々偶像ありと、彼れ孔子を本尊樣とすれば、此れは則ハちハートレーを本尊樣とす。

二。云く、盖し宗敎は唯信を以て立つものなれば也、然るに學問は之に反して决して信を以て立つにあらず、全く知を以て立つもの也ト。夫れ宗敎は信多く、學問は知多しと云ハゞ寧しろ或は可也、宗敎は唯信のみにて立ち、學問は只だ知のみにて立つと云はゞ、極めて笑ふべきの事とす、見よ、學問上に於て吾等が知ると云ふものも其根底は遂に信ずるにあらずや、而して宗敎上に於ける信も必らず知に伴ふとを要す、知らずして信ずるはポウル以下諸信徒の皆な卑しむ所ろとす、抑そも知ると云ふものは五官の直能によりて感知する事及び此感知を集成して論理上の定斷を下すものにあらずや、然れども吾等が直能によりて感知するとは極めて少く他は大率ね想像により假說により推測によりて窮知するのみ畢竟皆これ信仰に過ぎず、而して其の直能によりて感知するとも亦信なくんば之をも眞なりと信ずるを能わず、チンダル曰く吾人が經驗せるものゝ說明を爲さんとする時は必らず經驗以外の助を請はざる可からずと、故に學問の基礎多くは信にあり何んぞたゞ宗敎のみ信に據ると云はん。

三。云く、道德は漸々に發達するものなり、開明人の道德は未開明の時代に適せず左ればとて未開明の時代には其時代に適するの道德が實に道德にてありし也ト。玆に一の辨別し置くべき事あり、夫れ道德とは善を善とし惡を惡とするの謂ひなり、而して或事を善とし惡として識別するは則はち智能の判斷にして、既に善なり惡なりと判斷し了したるの后ち、之れ善なるが故に行ふと云ひ之れ惡なるが故に行わずと云ふものは即ハち道德なり、故にたとひ人の見て善業とするとを爲すとも其人もし之を善なるが故を以て行ひしにあらずんば之れ尙道德上の善業となす可らず、惡事亦た同じく然り、故に道德上の善惡とは其行跡に付きて之を判するにあらず其意思に付きて之を判ずる也。

左れば蠻人は子を愛するが故に之を殺したるとあり、殺兒の事慘なりと云へども此時代の蠻人に取りては之れ必らずしも惡事にあらず、何んとなれば彼は此事を以て善なりとし而して善ふるが故に之を行ひたるを以ての故也。

吾人今ま善と認むるが故に堂々として行ふの事少ふからず、然れども其の認めて善とするは吾人目下の智力によりて判斷するものにして、而して此の智力は向后必らず進步すべきものなり、夫れ向后に進步すべしと云はば今日には則ハち不十

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

分なるなり、然れども不十分の判斷なるが故に安んぜずと云はゞ、人世凡そ進歩あらん限りは常に之を不十分なりとして恐懼せざる可らず、然らば人智完圓せざる間は常に不道德を侵すと云はざるを得ざる也、之れ人理に於てある可らざるのみならず亦人情の決して安んぜざる所ろ也、故に知る、道德とは善惡を判別し、善なるが故に就き惡なるが故に去ると云ふの言行決意即はち之れ耳也と。

人の常情(コンモンセンス)は大なる哲理なり、而して常情は如此く解釋す、見よ何如に智慧ありと云へども之あるが故に德ありとすることなし、如何に利害を考究したりとも之によりて德を增すと云ふことなし、所云る道德家なるものは善なるが故に行ひ惡なるが故に去らんと欲するの猛烈なる人物也。

道德の理すでに如此し、故に其道德の言行と目するの事は時代によりて狀態を異にす、之れ勿論の理なり。

四　云く、治者が被治者を壓制し、男子が女子を壓制する云々の事、未開社會には善業なりし也ト。如此き事は道德上の論辨にあらず、只だ社會上に於て彼は利ありし此は害ありしと論ずべし、若し利害と善惡とを同一視せば則ち止む、若し相違を認許するあらば、氏が此處に列擧する事實の如きは則ち利害を比較すべきの事のみ、一概に善惡を以て論ずべきの事にあらざる也、孔子は男子女子を制することを以て善としたり、若し之を善として則はち女を制したらば此れ其人は道德に隨ひしのみ、今人の衷心尙ほ孔子の說を奉ずるもの若止を得ずして女子を優待すとも其意思に於て尙ほ之を蔑如せば道德上には依然不善の事のみ。

五　未開人は不愛人を以て德としたり、彼等もし博愛なりしならば國忽まち亡びしならんと。先づ一の誤謬あり、未開人も皆な博愛なりしならば、他に國を亡ぼすものあるの筈なし、此時に當つては愛人敢て恐るべきの事にあらず、然れども尙ほ亡國の敵ある以上は當時未だ博愛を主義とするものゝ偏からざる也。然れども之れ少しく論外に馳す、休言すべし。扠て人先づ一身を愛し、一家を愛し、遂に、鄕、國、天下を愛するに至る、然れども其天下を博愛するとの純善なるを知るは、之を愛するときは天下必らず安しと斷知し得たるの時なり、苟くも此に達せず、尙ほ國と國と相對し、鄕と鄕と相敵せるの時に於ては、其の一鄕一國に對して全力を盡すの寧ろ利あり且つ善なりと識認することあるべし、此時に當つては其一鄕一國にのみ愛を寄するもの決して不德にあらず、何んとなれば之れ正しきの事なりと信じて若かく行ふが故也。

⊙要するに氏は善惡を識認するの事と、之を判斷して實行するの事態とを混同せり、善なり、惡なりと判斷するは勢力に關す、而して智力は古今進退あるが故に其の「之を判斷して實行するの事態」に至りては亦た古今に異同あるべし、故に道德上の行爲は古今に於て相違することあるべし、然れども之は識認すると云へるに至りては古今常に同じくして、而して眞に道德上に於て輕重を爲すは、此の識認の儘に實行するや否やと云ふの事にある也。

○氏は利害と善惡とを同一視する乎。科學は万理を研究し盡すことを得ると爲す乎。進化論の上に於て理想、良心、の二物を何如に解釋する乎。凡そ此等の疑問は氏が解釋あらんことを欲するの要典にして、而して其解釋の如何により、吾人が前述せることにて有力にもなり無効ともなるものなり。若し夫れ無効となるの運びにてあらば吾人は更に愚考を吐露すべし、蓋し加藤氏が眞理を愛するの熱心は諸學者の決して忽諸視すべからざるの者也。

みさを

碓氷山人

「筆硯を磨き思想を練り適意の一婦人」を寫し出さんとて吳竹隱士なる人が著せるは即ち此「みさを」と題する小說なり「みさを」とは「適意の婦人」の名にて編中最も力を盡して横寫せるは即ちみさを女の行爲言語なり飮酒に耽り暴行を爲せし爲め其夫は秩祿を剝脫せられ剩へ追放の罸を蒙りしかば「みさを」は貧困の身となり千萬の苦悶を堪へて其老母及び一子一女を養育し西南戰爭の時に當り其愛する子女をして看病婦と志願兵とになすの美擧を寫し遂に其子女も無事歸宅しみさをが女學校の教員となる所にて編を終ふ大躰の趣向は斯るものなれば格別新趣向とも見えず其文章に至つては殊に舊套陳腐にして中途倦來て殆んど讀み終るに堪へず全躰の着眼卑近にして少しも高尙なる所を見ず余は此小說を讀みて何か長所を發見せんとして發見する能はず只思ふ儘を記するのみ。

凡そ需要あつて供給生ずと云へば斯る小說の出るは我國人の好尙尙ほ甚だ卑賤なるを證するものなり余は之を歎ず然れど其好尙に投ぜんが爲め面白からぬものを著はし人に阿り世と濁るは將た文學者の爲すべき所か近年我國に小說流行せしより今日迄の小說家多くは世好に投じ人氣を求めんとするに似たり余は更に之を嘆ず文學者のミツシヨンは斯る下等のものに非るべし世を導き人を化し國家を進歩せしむるの功なくば萬卷の書を著はすも益なし世の小說家少しく心して可なり余は之を「みさを」の著者一人に責むるものに非ず惣じて斯る種の小說家に向て感ず

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

る所を皆るものあり。

普通國文 前編

雲峯子

雜字雜語の多きを妙文といふ可からす否却て解し易き文字を用ひて平易にものするを眞の妙文とこそ云ふ可けれ」と或人の云はれしハ理りなり然るに我國にては文章とし云へば漢字の多きを貴ふあり和語のみ用ゐるを宜しと爲す輩あり我國語の發達を考ふれば兩者何れも誤れり元來我國語は不完全にして今後尚發達せずんバ文明國の語となすには欠くる所多からん然れば今後新語も起らざるべからず西洋各國の語も入り來るべし必らずしも今日迄あり來りし和語若くは漢語をのみ用ひて止むべきに非ず兎に角文章は人の感情と思想を發表する具たるに過ぎざれバ成るべく平易に成るべく面白く感情を現はし思想を吐露するを可とす今此種の文を人に學ばしめん爲め佐藤定介、畠山健兩氏相謀つて普通國文なるものを編輯せられたり其主意とする所は「漢語俗言は雜へながらも簡潔平易にして適し易くしかも國文の脉を失はずして其摸範となるべきものを集め云々」と云はるゝにて明かに知らふ、本書は貝原益軒、室鳩巢、荻生徂徠、雨森芳洲等諸大家を始めとして二十餘人の文四十餘篇を輯む卷を開ひて一讀するに誠に其言の如し卑俗に流れず高尚に失せず虛字空文なく、装飾細工の跡見えず平易簡潔にして而かも其意を盡す、眞に我等が摸範とすべき好文章のみなり斯る文章を摸範とせば恐くは文字の未た拘束せられず容易に思想を發表し得るを得ん余は本書の文を可とするが此書の博く行はれて世人が愛讀せん事を希望するものなり聊か感を記して批評の辭に代ゆと云ふ四月十七日

島田三郎
巖本善治　同著

公娼可滅

七十五頁
一冊四錢
郵税五厘

雜録

春遊亦平和ならず

華妹寄

酒屋には素より御用なし豆腐屋も三里の遠きに行くを要せずされども鶯音は書窓の四壁、來訪の佳友よりは山路車通せずとの不足を受くる屢ばあれど早櫻老松は門の內外、紅桃の林黄菜の野は家の南北、朝霞雲靜かなる處、午風日和かなるとき閑歩散杖に可なるの場所なれば來者の不平も覺悟の上あり扨この靜かなる住家を出てし久し振に京城の春を一見せんと一日横濱の停車塲に至れバ早曉の時なり上中等の待合室も酒除行届き諸新聞紙は丁寧に中央卓子の上に陳列せり室の一隅五人の一行二人は洋服三人は和洋は都人士と見受けらる三人は地方の中豪農の若旦那が漸壯士的を學得たる樣なり其談話の樣子では前夕袖腕流の親睦會でもありし樣子和洋齊しく手に仕込杖和先生は勿論高木履是等の先生とは此待合丈のみにてお別れ申す事と思の外禁煙室と見出して飛來りし部屋も禁煙の札なしコハ間違へたりと思へども一人の乗客なきを以て幸なりと喜び早く發車すればと思ふ處へ以前の先生ドヤ〳〵と躍り來り是は妙々殆んど我黨のみだ此時余が迷惑言ふべからず伴ひし少女と一隅に屛居の姿いらぬ遠慮と言ふ人もあら

んが勢仕方なし前日の連雨沓も木履も皆泥其泥の動ともすれば余等が衣に接せんとするを以て余等が衣袖は愈稠衰し彼等が杖履は愈跋扈す余等初めには伊勢山の櫻雲品海の碧波に目を欣ばせんと思ひしも今は早くその新橋に達せん事を望み新橋より一の花郷に到れは唯に五六の高平太のみならんや那處に酔漢箇邊に暴客余等これに避易し花に別れを留むるの暇まもなし悚然として匆々家に歸りぬ。

婦人は多く心細きものなり力弱き者なり余は最も其一人なり文明は佛國流の華美にあるか鹿鳴館の舞蹈にあるか弄玉の巧拙にあるか骨牌の博識にあるかは知らざれども今少し婦人が安心して旅行し得らるる文明なればよきものにといとゞ悲しきに堪へざればかくは記しぬ。

懸賞答文

上黜、左　蕗香女史の答

拜呈今般の御試問に付てはいさゝか私にも實驗御坐候ら得ば左に奉申上候。

妾在校中に修め來る諸學科中尤實効ありしと認めしは數學なり妾は始め小學科卒業せしより引續き地方女子師範學校に入り全科卒業後直に同校に奉職し侍りぬ實に其當時を追想すれば若年とはいひながら其何れが實効あるや又何科は他日何の用に供ふる哉の點には余り氣もつけず只一心勉强して良成蹟を得るそのみ樂しみに腦力を煩はし日頃諸先生の熱心し玉いし家政學さへ實驗せんなどの念もあらざりしが其後今の家に歸ぎ專ら家政に從事するに至り始めて算術科の必要を感じたり元來當家は自宅開業醫にして良人には日々内外患者の扱にて餘暇もあらねば金錢の出納は專ら自身に引受けたり勿論出納向は殊に明細を要するとあれば爰に始めて心付きこゝぞ兼て學びし簿記法の應用所と即ち其法に基き彼是取捨し適宜に帳簿を製し日々の出入毛厘も剩さゞれば月末あるひは盆暮の人の忙しき時にても更に平日に違はぬ樣なりし。

初の程は良人も書生揚り自分も亦其如くにて俄に一家を成たるとなれば上に舅姑のましくて指圖を與へ玉ふもなく只書生共や下女なれば諸事萬端困難の事のみに遭遇したるが何も此會計に越るはあらざりき而して一日は幾許の費用を要するものか一月は如何その見込もなく無暗に其日を送りしが遂に

は先一ヶ月諸費用の豫算を立（ソレデモ中々豫算は當ラザリシ）つるを發明し追々と其筆頭違はぬ樣になり又初は都て通取りありしが其不經濟なるを悟り之を止たり故に今はどふにか前日よりは家計上にも餘り無益の事をなさず共濟む樣になりたり實に前日を想へ回せば如何許りか目に見ぬ費を投ぜしや今更後悔し侍るなり今此後悔を抱くに至りたるも專ら算術の庇廕に外ならず其他澤山あれ共一々記すに暇あらざれば之にて擱筆し侍る其計算上には四則差分比例時としては利息算を用うるともあり其便實に云ふべからず。

學窓を顧みての感覺

在學中の諸科何れも直接或は間接に多少づゝ實益ある樣なれ共獨彼の動植二科は間接の効用なきにしもあらざるべけれど他の學科に比しては格別感ぜぬ樣思ひ侍る併し學問と實地とは種々符合せざるとのみ多く又種々學問になきとを發明するとも多しと茲に學窓を顧み同じ學びの庭にて敎育を受けし友人の多く侍りてあるは人に嫁せしもありあるひは未だ奉職中の人もありて皆各處に散在しあれば又舊の如く皆逢ふ事難く各の感覺を聞く由もなけれど若相逢ふとの日もありて共に實驗話をなすとならば嘸面白して且爲にやあらんと希ひぬ併し私の御答は御試問の趣意と違ひ居るやも難計けれど偏に自身の經驗のみ其儘奉申上候實は不快の爲今朝始めて御試問を拜見いたし候間五日までに間に合はぬかと草稿のまゝにて差上候間宜しく御はんじ御らん被下度奉願上候尤賞の望は無之候得共御問を幸ひ實驗を申擧るのみに御座候。

評に曰く、家政の上よりして算術の必用を經驗なされし事頗ぶる宜ろし、學校にて簿記法はお學びには成らざりし乎、而して簿記法の必要は未だお感じには成らず候やさ、千々に想ひ測り候、左れば前のに較べ見るに、何れ劣らぬ實際有益の御經驗にて、頗る價あるのお答さ、思ひ答文上の左さいたし候。

豪傑はホームを切要す

かすみ

グラッドストンは家に於ては幼な兒の如く、無邪氣に遊び戲むれて時々子供に欺かれ快よく笑ふ。ビスマークは何人をも疑ふが如く、亦何人にも氣を許ぬやうなれども、獨り其妻に對しては、殆ど辨別力を失ひし如く持なし万事唯信ぜずと云ふとなし、因りてわれ世の事業家と云もの若は權謀家と云ものゝ類ひを見に、彼等家に於ては殆ど別人の如く、宛ら鬼內に入りて佛に變れるの狀あり、然のみならず世に出て輕薄の仲間に混ずるものほど、家に歸りて家族を大切にすると彌よ切にてあるが如し、蓋し彼等が眞心を托するの人は只だ此の家

族のみにて他は皆な間者の如く刺客の如く鬼の如くに見ゆるとならん、左れば彼等にもし樂しきホームなかつせば彼等は抑も何處にか思を慰さめん實に心細き限りと云ふべし、世の開くるほどに好きホームを要し、地位の進むほどに好きホームを要し、交際の廣まる程に好きホームを要し、人の疑はるゝ程に好きホームを要し、世上のあれ果てゝ見ゆるほどに好きホームを要す、此理深遠にして亦極めて味わひあり。

貴婦人と貧民

みどり

昔し佛蘭西國に大ひなる饑饉ありけり、困苦するもの數を知らず、貧しきものは大方た餓えて死せんとするなり、時に或人貴婦人に對して此の慘狀を談し、彼等が最と憫れむべきの事を說きたるに、貴婦人不思儀なる顏色して、

奇やしきと哉、其人々は何故麵包を食らはぬぞ、と問へりしよし。現今米價騰貴し貧民の難儀一と方ならず、新聞紙たまく之を報ずれども世上に愍れみの聲なし、小說家は相變らず下宿屋の戀情小說に忙がはしく、政黨員は例の如く黨派競爭に餘念なし、万人多くは奔走して傍らの貧者を顧りみるとあらず、此時に當りて能く同情の淚に咽せぶものは、夫れ女天使にあらずして誰れぞ?。

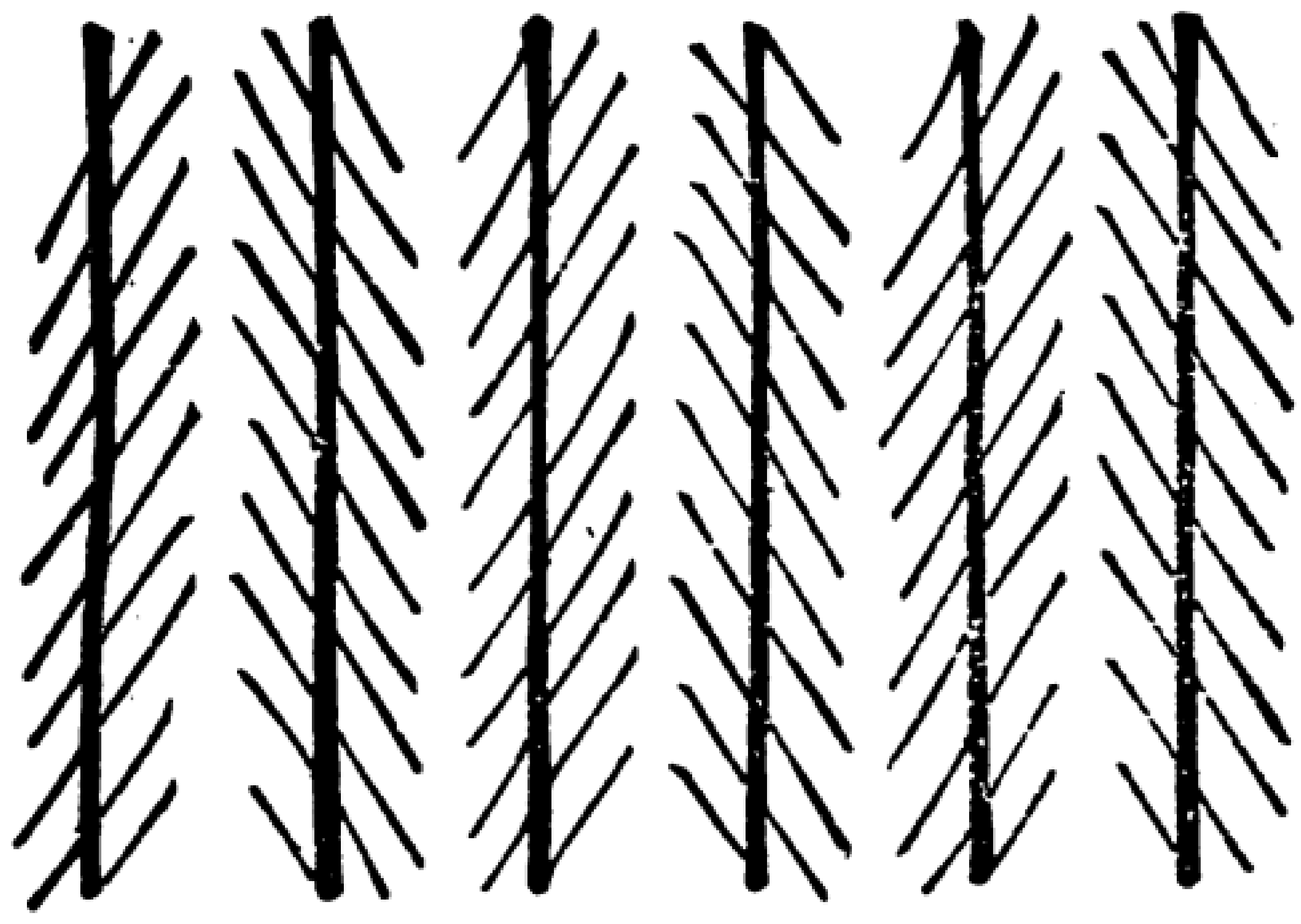
不思儀の畫を解明す

元良勇二郎

本誌第百九十五號に不思儀なる畫と題して左の圖を載たり、此は見樣によりて或は眞直にもなり或は曲れるものともあるとなるが、其何故に然るかの理由に至りては頗ぶる議論あるとす。然るに哲學博士元良勇二郎君は其心理學講義中に於て特に之を解明し、左の如く解釋を附してわざく弊社に惠送ありぬ、故に玆に之を揭げ讀者と共に其妙理の存する所ろを味わんとす。

斜なる直線は各平行線なりと雖も平行せざる如き誤りたる感覺を生せしむるものなり其故は此平行線を認識せんとするには眼は絕へず線に添ふて動くものなり、例へは(イ)(ロ)の線に添ふて眼が(イ)より(ロ)の方に動くときは其れを橫切りたる斜なる(イ)線の爲に眼は常に知らず識らず右の方に引き去られんとす、恰も道を橫切りて斜(ハ)なる多くの棒を置き其上に車を挽くが如し、常に右の方に引き去られんとするの傾きあるが故に直線に動かんとするには少しく左の方に傾くの力なかるべからず故に眼球を運動さする筋肉作用により少しく眼を左の方に引き付くるの傾きあるが爲めに(イ)(ロ)の直線をして少しく右の方に傾きたるの感覺を生ずるなり、是れ感覺結合の理に於て論じたるごとく筋肉の感覺と網膜の感覺との結合によりて生じたるものなり、而して眼が(ハ)(ニ)の線に添ふて動くときは斜に橫切りたる線が(イ)(ロ)と其位置を反對にするが故に(ハ)(ニ)は右の方に傾きたる如き感覺を生ず、斯の如くして全體の圖が誤りたる感覺を惹き覺すものなり。

右



左

(ニ)　(ロ)

結婚は人類の大倫

ミ、子、譯

或女子は大望を抱き之を遂げんが爲め獨身にて暮すといふ思ふに彼等の中には或は政治社界に出でゝ奔走せんとする者あるべく或は文學上に大名を爲さんとする者もあらん其他人民に自由教育を施さんと欲するあり亦は風俗の改良を望むあり而して彼等は若婚姻すれば其企圖する所を遂ぐる能はずと云ふ彼等は未だ婚姻の何たるを知らずして之を嫌ふ者なり凡そ世の中に結婚を爲す程貴重の事はなし試に古來の歴史を繙け大業を爲し大事を遂たる婦人は多く獨身者に非ざりき我等其精神の高尙なるを貴び其淸潔なるを重んずる所の女子は皆婚せしものなりきヲユドイス及ジヨアン、ドイ、アークの如く獨身者にして著しき大功を果せしものなれども斯る人は甚だ稀なり昔しクロウヰツグの妻は單身異境に入り彼のフランク人種に基督敎を傳へ其結果は延て魯國の蠻民に及び幾多の人民を罪惡の中に救ひたりき其他今日に至る迄我等が敬慕する所の女子は多くは良妻たり賢母たりし人なり然るに或者は此言を信ぜずして結婚せば困難する事あらんと心配し苦勞を增すに至らんと心配す然れど人の爲めに困む者は福なり人に事ふるものは幸なり眞正の幸福は困難に伴ふ事を知ざる可らす語を幾多頑固の女子に寄す若幸福を望ば獨身の生涯を送る勿れ。

きよめぬ庭

產科醫の頓智　其九

洒落齋主人

古より口わろき人の辭に、造る時はいかにも密やかになして、出來たる時はいとも行々しく稱ふるものは、出產なる可しと云へるが出產は婦人にとりてはいとも大切の職務にて我邦にても昔より兒產まぬ女は、女の職務をせぬ者とて、忌しき離緣など云へる目に、遇ふさへありけり。されば出產のときは元より、懷妊の中をも、特のほか心をつけ、身の養生怠りなく、安產をすることそ願はしけれ。

幸ひに我邦の婦人には、難產など云ふこと少く、鉗子と云へる機械を、用ゐることさへ稀なる位なれば、赤兒の身體を毀ち、產婦に負疵をつけて、漸く兒を產するなんどのことは、上等社會の日常運動をせられず、コレヨ〳〵と御手を鳴されて、化粧にさえ人手借らるゝ方さまか、二十三十の年の坂近なる迄も、妾の夫と見奉るほどの殿御はおはさぬぞとて、外國にては賣遺りのオキヤン女が、シヨウコトナシに獨暮する

古簾、いや〳〵オールドミスを氣取られし方が、後れ嫁き三十路へての初産などにてもなければ、かゝる忌しき事は少なしと、醫科大學の産科醫達も物語りぬ。

されば難産は、外國にも亦た割合に少なきものとて、名高き佛國の産婆會の長ラハペル夫人許にて、取り扱ひたる出産の數、一万五千六百五十二回の内にて、機械を使ひたる出産は、僅に二百七十二回ほどなりし由。これのみにても、難産の少きは知らる可し。さるに産科の術も日々に開けて、今ははや、産論著して、日本國隨一と稱らるゝ賀川宗悦先生の、何年忌にてもせん許なるに、田舍にはまだをかしき事も多し。

或時近き家の家婦産の氣つきければ、急ぎ産婆迎ひとりて、とりあげんとするに、此は坐産と云へる俗に逆兒にて、産婦もいと苦がり、切りに陣の痛くれど、生る可き樣も見ず。産婆までも大汗になりて生ませんとすれど出でず。水天宮の札、鹽竈の御符、安胎の守何くれと戴かすれど、少の効もなかりければ今は神佛の利益もあてにならぬなど、のゝちり騷つゝ居たるうち、産婆の注意にて、近き邊の名高き産科醫をなん迎ける。彼の産科醫と云へるも、シレーデル、ツワイフェル、ウィンケル氏などの産科書一度見たことはなく、鉗子と鑷子とは違ひし物にはあらじなどの大醫なれば、此所に來りて坐産なる旨をきゝては、ちと首ひねりせらることよとて、手をもおろさず居たりしが、云ひ出ずる樣は、余が家に重寶なる一幅あり、此をとり來りて床にかけなば、忽ちに生れ出づ可しとて、自ら家に歸りとり來りて、うや〳〵しく床にかけたるを見れば、世界の大哲學者、三界の大法主、釋迦牟尼佛が幾年の修業を終り、立命安心の道を得て、雪山を出るの繪なりけり。人々其意は解らざれど、いかにも見る間に産婦は安々と赤兒を生落しければ、一家の喜悅一方ならず、産科醫の辭の食言ならざるを悟れり、されど先の掛物のいかなれば彼の難産をゆるめたるやと、疑ひ惑ひて、之を索ねけるに「イヤトヨあれがほんの出産(山)の倒さま(釋迦樣)ダカラ」と答しとなん。

英詩和譯

Y.生譯

散文だに譯するはいと難し况んや詩に於てをや詩は到底譯し得べからずと或人の云ひしは或は至言に近からん余は斯く信ずされどしがらみ草紙第六號にて我等が閲讀せる所も亦理なきに非ざるべし故に今不文を顧ず左に一詩を譯出しぬ原詩はテニソンの作にて題して(The Deserted House)といふ譯出し

て原詩に比すれば只に玉と石との差のみに非ず殆んど譯詩と云ふ能はず余は深く之を恥づ。

荒庵

テニソン原作

(1)

わりし世の　様もかはりて
あれいほに　住む人かげも
消えはてぬ　明け放ちたる
まどの戸を　遠くのぞむも
かなしかりけり

(2)

窓のうちは　闇夜ならねど
ひさかたの　光りもさゝず
なりにけり　むかし住みにし
いへもりの　さゝやく聲も
きこへざりけり

(3)

まどの戸の　あきたる間に
いほの内の　暗く見ゆるも
いとすごし　窓のいた戸を
とざゝなん　淋しきさまの
見えずもこそあれ

(4)

いほの内に　昔しひゞきし
よろこびの　聲も何時しか
たえにけり　つちもて作る
このいほは　ふたゝび土に
朽ちやはてなん

(5)

すむひとの　今はかへらぬ
庵をさりて　天つみくにゝ
いざゆかん　さかゆる都に
かぎりなく　すぎにし人と
共にすまなん

家の手わざ

天知翁

にわとりの蕃殖方

第二蕃殖、には固より成長完全のものを購入するを可とすれども、未だ不熟練なるとき一時に高價を投ずるとは、余が最も採らざる所なり故に在來種中「チケツコウ」鷄の如き孵卵熱心なる母鷄を購入し之に種卵を抱かしむるを最上とす、此種卵は往々雜種、異種、或は孵化せざる等の欺きに罹るを以て必ず信用ある者より購入するを要す（予は家禽熱心家に知人

少からず因て安全の購入手續きを後に掲げ其便を計るべし）凡そ小より徐歩して大に及ぼすは事業の誠言なるを以て、先づ一種類の卵四五顆を抱かしめ漸々增殖するを可とす、此孵化用卵は初產及び終產の五六顆は用ゆべからず、其精良なるものは圓形にして大に、新鮮にして外殼美澤あり、光線に透せば透明にして内部實せり而して產後十五日内のものを最良とし遲くとも廿日を出べからず、且動搖せしむることと可成手溫を傳へざるを可とするが故に撿卵器を用るを宜しとす、其產卵には日月を記し鈍端を下向きにして切殼中に貯ふべし。

抱卵巢は茶箱を仕切り之れを横向けにするか又は蜜柑箱にて足るべし但し鼠の入らざる程なる隔子戸を設け夜間に閉ぢざる可らず、内には柔かき藁又は乾草等を厚く凹狀に敷き濕氣と轉落とを防ぎ（箱の前下に受け木を附着するも可なり）、乾燥にして空氣流通し日光適宜なる所に置くべし、其既に伏卵後は箱の位置を容易に動すべからず止むを得ざるときは靜に曳き動すべしと雖も之れ亦恐れなきに非ず、抱卵の季節は二月下旬より三月下旬迄を最上とし夏土用明けよりするも亦可なり、冬季は少しく保護に注意すれば却て疾病を釀すこと稀なるの雛を產すべし（濕氣多きは最も忌むなり）、抱卵の時刻は必ず夕刻なるを要す、之れ往々人の知らざる所なり、既に其安着せしを見ば、餌納器を備へて淸水及び玄米、青菜を與ふ、爾來、飲食飼料を入れ替へ、函内を淸潔にし、毎早朝巢箱を開くことを怠るべからず、毎朝母鷄を出して籠伏せにせば自ら脫糞し新氣を呼吸し時を費さずして再び巢に就くを欲するものなり（時を費す多ければ卵を冷すの患あり）、此の如きこと三週間にして概ね孵化するものなるを以て此際決して人工の助けを與ふべからず、世人此點に於て失策すること多ければなり。

小說

野邊遊び（其五）

ゆかり

私はすみれ繪などを見るといつも此間の事を思ひ出していけないの、口惜しひと云つたらあの位ひ口惜しかつた事はありませんでした、もー摘草は死ぬ迄しません、でもお松さんがあの時から意地惡がだん〳〵よくなつたつておよしさんが此間お話しなすつたの、

ソーカ岸本の事はおじさんが惡るかつたもう氣にして吳れるな、大分顏色もよくなつて來たし早く學校へ行けるよう

にならねば困る、寝るノが嫌だなぞと云はず氣をしづめてよく養生せんければいかん、大分よくなつて來たから氣を引立てゝと思ふ叔父の言葉はかへつてとし子の氣を沈ませます、いつも快濶な子が一月程前より始終ふさぎ勝でブラ〳〵と床に付きましたが此頃は少し快方に趣いたようですしかし胸のあたりに痛みを覺え時々は非常に苦しがることもありまた忽ちに快くなることもあります今日も仁田の叔父が見舞に來て呉れいろ〳〵の話しをして慰められましたが生憎に土産としたカードの花菫にとし子の目がとまると子供心に何事を考へ出すか、鬱ぎはじめたノデス、

私はお醫者樣が肺病だと御つしやッタソーデス、熱が出ないようにせねばいけないから家の内に寢て居ろとおつしやいましたが私はもう熱が出たら死ぬノダト思て居るノ、でも御父樣の御歸り迄は生て居るノ、弟デモ居ると死でもイーケレド……兄さんも何もないから死では……

ナ、ナニを云ふノダ、死ぬノなんぞとつまらぬ事を云てはいけん、お父さんの御歸り迄にはすつかりよくなつて新橋迄御迎ひに行こう、

胸が痛ひ時は私には御迎に行く事は出來ません、人形の御みやげだの何だのあるそうですがそんなに今は欲しくないノ、死ダラもう持て行く事が出來ませんから、

死ぬなんぞとこまることを云ふノー、庭などへ出ると熱が増すから決して出てはなりません、キットよくなるから今でもまだそうやつて起て居られるデハナイカそんな病人が死ではおぢさんでもいま死ぬかもしれませんそんな事を考へてはいけない、確かりとせんければ、キットなほるから、

慰め居る時に母親はいで來り手に一通の手紙をもつて笑ましげに、

イー子おぢさんと御話しをして氣分はどうだね、オヤ大層宜い繪を戴いたヂヤーないか、

菫の繪があるノ、

ソーカエ、イーエ、どうもありがとう御ざいました、おとし京都から御手紙が來たよ、おとつさんの處から、

ソーいつ御歸り、エ私しの處へも來て?

父子の情安否よりまづ歸りを聞くげにさもあるべきです、

御前の處へも來ました、讀で上ようか?

イーノ私が讀むノ、おつかさん少し胸がいたくなつて來タカラ寢て讀でもヨクッテ、

アーだからおつかさんが讀で上ようと云ふノダーチ、おちさんに御免を蒙つて横におなり、ひどく痛むかえ、すこし冷えタノダロー、熱が出るといけないと云ふこともよく承知して居ながら庭などへ出るそうですな、子供ダカラドーモ、本當にこまります少しよいかと思ひますとすぐ輕はづみをいたしますから……サーよく祓けて居ないといけません、モーイーノ　讀むのよわら本字に處々かなが附て、よ、おつかさん、

ナンダイ、

とし子は母の名を呼んだ儘無言、何故かと母親はソット窺き見ればとし子の枕に涙の雨のいたく濺げど曉られじと思ふ風情、何故か解しかねます。

寄書

浄るり節と學校

田中古象

學校と云へば又遊女學校の事かと早耳の人ハ合點すへしこハ黒川眞頼氏が梅兒祠邊の櫻が下に丈餘の石碑を三つ四つも立てん程の卓論をのべられたるが爲なれど余はさらく\斯樣なる事に容喙せんとにあらじ却て高名の飛沫が吾黨をけがさんことを恐るゝ也。

余ハ數日前國民新聞の廣告を一見するに基督教主義の六合雜誌に浄るり論あるを認め謹嚴なる學問雜誌に浄るり節とはふさわしからずと思ひて好奇の心抑へんに由なく遂に走つて坊間に一本を購ひたり思ひきや議論卓拔引證分明浄るりの美妙を看破すると共に高潔純正の旨味あらむことを望めり星川逸氏とハ何人、天とがる星の流れに棹して美の王國よ遊ばんと欲する者にあらずや。

因つて思ふ無作法千萬なる寺古屋風の教育ハ往古の一夢に附し去られて余等の腦裏にハ其影すら留めざるにひとり第二の女兒教育ともいふべき浄るり節稽古の事ばかり舊の如く寺古屋流に放任するは如何あるべき所謂お師匠さんなる者を見るに妙齡無學の少婦かさなくば貪婪輕浮の老婦にして花のごとき女兒を扱ふの性格を有する者なしさるに可憐の門弟は互に膝を交へてお染久松鮨屋の彌助お三輪ころしおはん長右衛門などの艷ものを語り時に市井の亡頼漢と席を同ふして狂舞亂唱するは大層の様なれども國家のため然るべからず風敎に熱心なる者蚊の鳴く音ほどに感ぜぬとはしも末の世や。

余は近頃讀賣記者が女學生の醜聞をあばいて筆誅するを知る思ふに女生は學ぶところあるが故に負ふ所重き也されど滔々たる不德敗行の婦人は意氣な小格子造りの裏店より芬々たる異香を放ち來るを知らずや是れ余が浄るり學校ある所以也。いざ學校となれば當局者の事にして定めて好分別もあらむ唯余は數條の大本を捉へおくのみ。

一、従來の物語りを撰り分けてあまり淫なる者醜なる者は用まじき事

二、諸流派の名手を糾合ふて規則的に敎授致すべき事

三、女人と三尺、頬冠り連とは法律の力を借りても別々にする事

四、今の大ざらいの類を改良すべき事

浄るり節の妙を悟る者稍多れば星川子ののぞみ通り日ならずして文學大家の著作を見るに至るべく授てはハンデルの皎潔神巧を表はすも遠きにあらじ何處も學校の設置こそ急務なれ今日に於ては消極的の敎授法にても善し責めては教育博物館の側面なる建物ほどになくとも下町邊にちらほらたる私立學校位にはありたき者なり。

終りに望んで星川逸民氏に多謝す氏の卓逸の妙腕もて吾國の特粹音樂（氏の所謂）の隱美を發揮したる事はさすがに嬉しかりき末段浄るり節を以てプリアムス王の故都に比し泓乎たる天風人間桃李の花を開くと結びたるは浄るりの未來をトし

て歷々目に在るの思ひありいと惜むべきは校正の疎漏にや誤字衍字多く齋藤幸正の諸流派系統の式の如きは聲曲類纂に載するところなれども原式に比して大に誤る所あり蓋し表式の類は一齒を誤まりてすら其價値はなきものなるに况して古人の式を掲げて誤謬を傳へては古人に對しても濟まざる義にあらずや又獨乙文學は彼のシルレルが國步艱難のときに獨立自由を高歌云々と記しあるはケル子ルの事にてはなきやシルレルも軍醫なれば戰塲に出でたる事もあらんめれど前後の文意を考ふれば彼ロザムンドを著して有名なる年少慷慨家こそ適當ならめ如何にや。

余も好める道とて古き物の本などさがして少しは淨るりの故事來歷を知れども久しければ玆には省きつ。

泣かん乎笑はん乎

透谷

人は流石に正直なり。　欺けども詐れども其聲の高く天に聞ゆる者を聽けば、泣く可き時に笑はず、笑ふ可き時に泣かず、其天眞の照々として見る可き者あるを欽す。

過ぐる數歲は鬱憂多く諸民樂しむ者少なかりし、國會の春は遲漫なりしとて泣き、文運は痛く拙なしとて泣き、商工の事業は睡眠して起きずとて泣けりき、海内の雲氣何となく闇憺として涙痕の點々たるを認め、沈々として笑聲の外に洩るゝ者なかりき。　此時に當つては花は空しく墻頭に媚び、月は徒らに愁人を惱殺せしに過ぎず、從つて嘆憤の聲、破家の聲、兇殺の聲、親兒相爭ふの聲、朋友相訟ふの聲等の端なくも相續いて天に聞ゆるありしのみ。　悲境遙々曷んぞ盡くるあらん、猛士長劔を提して不枯に入り、妖氛を排し別に乾坤の鮮淨優妙なるを開かんとするあり、奮然として嶮崖に攀ぢ、突擊して魅魔を襲ふ、其企計する所の多端複雜名狀す可からざるを以て尙ほ且つ回天の事業は近からず。　蓋し自然に無私、粗らく劈かれたる石にも其形あり、形によりて運命あり、世の風潮を轉廻するは豈に容易ならんや。

つらく\歲月の過ぎ行く跡を見るに、痛惱をも歡喜をも皆な共に載せ去りて尙ほ更に他の痛惱と歡喜あり。　然れどもわれ今年の春に於いて眼界に影り來る所の者の自から去歲と異なるあるを感ず、細かに是を觀想すれども去歲の花は今歲の花と異るなし、而して人心何となく悄然たり、彼等實に笑はんとし、又た笑ひつゝあるなり。　乾坤わが前に一轉せり、何が故に一轉せる、われ是を知らず、唯だ睹る昨日の愁涙は拭はれて明眸現はれ、絕望化して有望となり、嘆聲變して歡聲となるを。　其の高天に聞ゆる所然るなり。　昨日汝に待たれし議會は今日汝を待つ、昨日汝を詐瞞し、汝を泣啼せしめたる政黨の寃鬼は漸く湮滅し去りて他の眞實なる者起らんとす、汝が無聊を消さん爲めに撰擧あり、地方制度の忙事あり、若くは東都百萬の人士を喜ばす可き新劇塲の建てられしあり、而して亂麻索然たりし文學界にも亦た有望の旗幟各方に現出せり、汝此に到りて樂しまざらんと欲するも得ざらん、何人か有望の人ならざらん、何物か快樂の者ならざらん、少かきは世を樂しみ老ひたるは墓を待ち樂しみ、而して日の下の者凡べて何となく浮き立ち、鳥歌ひ花燃ゆるの好景を齎出せり。　人は流石に正直なるかな昨は憂ひ且つ泣き、今は歌ひ且つ笑ふ。　然れども世人は容易すく泣き、容易すく笑ふ、此間に世と共に泣かず世と共に笑はずして冥暗の中に勢源を握攪する者あらば國の至幸なり、須らく巍然たる、爛熳たる、誠實なる人物の路に要するありて卑流し易き人類界を遮り、蜃樓に迷ふ者をして其の本道に還らしめ、堅忍し、勵精し、以て人生の嶮山を越へしむるは實に望ましきかな。

櫻花長堤を包みて人山を爲す、われも亦た到りて花下に彷徨せり、美妙なるかな花や、嗚呼然れども花の明日を觀し來れば黎興忽ち醒め、轟々たる人馬の響も唯だ遠寺鐘聲の間に寂然たり。　われ世の歡笑するを見て始めは是れを祝せり、然れども思ひ稍や深く而して心再び迷へり、嗚呼歡笑するかな、人の無邪氣掬す可し、然れども汝が傍らに無數の欺罔者待ち、萬樣の藪醫術行はれ、而して眼界の稍や春色に接するを見て飛舞措く所なきは悲しいかな。　行いてゴールドスミスの荒村の詩を讀め、老者手の衰へても寄る可きなく、獨り殘されしが故に止むなく小河に衣る苦菜を摘み、棘中より薪料を集めて僅に今夕の食を得るが如きは豈に詩人の想像の中にのみ止まらんや、公伯の益す昌へて農民の日に凋衰するを見ずや、人心奢美に傾いてより親を捨つるの兒、妻を追ふの暴漢得て數ふ可きや、嗚呼外面に歡聲を聞き裡面に血涙の滴るを見る、斯の如きは民を思ふの士の豈に能く憂悶するなきを得る所ならんや。　太とき煙管を口にし、美くしき酒盃を手にするは學者か政治家か、將た宗教家か、われ彼等に對して憮然たり。　嗚呼泣かん乎笑はん乎、迷ふ事久し。　われに命ずる者あり、曰く憂ひよ、憂ふる間に樂あらん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

開書

容貌の事

横濱フェリス女學校　佐藤てつ

親愛なる孃方には近頃或る寫眞師四五十人の顏より難ある所を悉く除き只美しき所のみを撰集して一の新造の顏を描きゝ事を御讀み被遊候哉哲學者は此顏を一分一點の欠點なき最も完全なるものと致し候はん歟妹は今夜机に對ひ此書面を認むる時此の新造の顏に非ずして貴孃方の各御特有の尊顏を拜し度熱望致居候妹は想像の中に皆々樣の御容貌を描きて或る方は斯くあらん又他の方は斯くあらんと耳目鼻口の形髮の色までに及び候時は一人として同じきはなく實に其種類の多くあるには驚き入候次第に御坐候世に人間の容貌ほど不思議なるものは無之千人よれば千人ともに其容貌異にして二人同じきものは他に無之偶々よく相似たりと思はるゝ人も能く眼を注き候時は全く異りたる所あるを發見可致候實に之を考へ候時は一層造化の奧妙なるに驚き入候乍併他人はさて置き貴孃方各の御容貌に就きて申候はゞ皆々樣御自身の容貌の美しからん事を望まるゝ事疑ひなかるべく且つ其望は正當なる事にて御坐候故に妹もし顏を美しくせんには斯樣々々の良藥有之候間藥師屋より御購求め被遊候て御用ひ可被成と申上候はゞ定めて貴孃方の中には此を實行せらるゝ方なしとも申されず候然し妹は決して此の如き馬鹿らしき事は御勸め不申候美と申す中には美の純美なるものありて妹の只今皆々樣に御話し申さんとするは一種特別の美に御坐候貴孃方には中まて脫ぎて眞相を見よと云へる西洋の俚言を御聞き被遊置候事と存じ候斯る美を指して何の美と申さんか若し容貌の美なりと申さば貴孃方には此の美を御所有なさらざる方は一人も無之事と存じ候　有名なる詩人エメソンの申せしには「凡そ世界に他人の悲歎痛苦を除きて喜悅を與へんと欲する希望より生ずる容貌驛動より美はしきものなし」と、實に此言は適中したる言に有之候故孃方には此一句を坐右の銘となして御實行あらまほし。

若し貴孃方我儘を悉く捨てゝ孃等の親しき眞友の事を追懷し玉ふに方り其人の美と申すは果して何れの邊に有之候哉又之に反して一時のみ愛らしゝと感したる容貌を後に至り判然御記臆なさるゝや出來候哉　テンチソンはマリアの眼を觀て默禱の家の風ありと申候が此れよりも美はしき眼は他に有之候はんか」我々の喜怒哀樂の情一々顏に相顯れ候故もし孃方容貌の美しからん事を御望みなさるゝならば先づ心を美はしくなし玉へ。

文詢

一。未だ御目にかゝらず候へども私事は一月前國を出で當地に參り候も一向に樣子相わからず國を出で候も或學校へ入りたき心得にて出京致候が此頃女學生の惡評により親類の者共は私に國へ歸へれ學校はよろしからずと申候が一旦決心して出候ものオメ〳〵歸國致すも殘念故一日一日と過る中にハヤ一月と相成先頃女學雜誌を見て殊に文詢の便なるを相感じ貴社に謝する處に御座候私は神の道を信じ居り候へ共府下キリスト教的の學校にては西洋婦人となれても日本婦人とはなれぬとの事にて失望致居り候然らざる學校にては德義惡しきよしにて殆ど困却何卒風儀よろしき學校を御教授被下候へば幸甚し。

二。私とは文學に志したき所存に候が先つ如何なることから學び如何程學び候へば文學をせし人と云はれましようか且其方法。

三。女子自身獨立を致さなければ良人を助るとは出來まいと思考致候產婆美術のごときを除き學問にて獨立するには只今の時勢で何でしよう尤も其人の性にもより長短もありませうが一番獨立しやすき者何に候や。

四。私は小說を好みまして讀みますが格別利益になる小說を見しと無之が見て爲になる小說の名も御序に御教授賜はらば幸と存候。

御教授に由て私の學校もきまるとなれば此度發行の女學雜誌へかならず御答へを願上候文筆失禮の罪、御用赦被下度候。

（一　女　生）

答へて申す。一は、世上にても往々彼此と申す所ろなれども宣教師方の女學校にて日本婦人が出來ぬと云ふとは決して無きとです、然し多少其弊もあるのです、道德の主義を基督教に取り且つ日本人の獨力にて立てゝ居るのは府下では富士見町三丁目三十二番地の明治女學校でしやう●二は、小學高等科二三年の頃より女學校に入り四五年勉學あれば先づ文學の味ひが分つて來ます●三は、仰せの如くしたものでしやう、文學をお好みであれば師範科を學びて小學教師となり傍はら人の性質にも因ります、然し速記、裁縫、齋、小學教師などが今日の所ろでは第一適文學を專修なされては如何です●四は、大問題ですが、近年の新作では、坪内氏の妹と背かゞみ、細君、二葉亭氏の浮雲、末松謙澄氏の谷間の姬百合、中島とし子の善惡の岐、などは女學生に面白くて且つ有益のものでしやう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

板垣退助君東京に入る

彼のナポレオン、ボナパートを見よ、彼は初めより私慾の怪魔にてはあらざりし也、只だ夫れ一と度び成効し高才自から利して一世を風靡するに至り則はち非望を懷くに至りぬ、經に云く、以て六尺の孤を托すべし以て千里の命を寄すべしと、蓋し人の尤とも過ち多きは其得意有權の時にあり、若し夫れ失意沮喪の時に際すれば、何人と云へども日に三省して其德を愼しまずと云ふことあし。彼の板垣君の愛國公黨論は其の大坂に於ける大失敗の日に成れり、其文字の有情有德なると未だ必らずしも賴む可らず、今や君か辨論は關西四國九州を風靡し恰かも尊氏都に上るの勇を以て京に入り來れり、惟ふに君が眞性を卜知するは則はち君が今后の行爲如何に在る也、君夫れ既に得たるの勢力を何如に利用せんとする乎。

薙刀道

明治女學校に於て薙刀道を教授するの一事は他の多くの女學校の賛成を得たるよし、吾人は本年年頭に於て之を主唱し今に於て既に如の此き賛成を得るに至らんとは實に望外の幸わひなりき、府下現今の薙刀女師小松崎古登女近頃ろ追福武藝會を催ふし吾社にも案内を受たれども、其の日安息日ありしを以て行くとを得ず、故に國民新聞の記事を左に揭げて、當日の景况を報ずべし、

芝區西ノ久保巴町に住む小松崎古登女と云は幕府の臣小松崎義廣と云人の娘にて一刀流の達人强矢武甲齋武行の妻戶田流薙刀の名人佐登子の門人となりて多年武藝を修め頗る蘊奧を得て同門第一流と云れ〳〵稀なり現今も尙華族其他高等官にて武藝好きの家々にては其門に入るもの多きが就中池田男爵の令孃並に元老院議官川田子爵の令孃等は其門下に於て錚々の聞へありと本年は古登女の師佐登子の七年忌に當り武甲齋の十五年忌に相當するを以て古登女は追福會を催さんと池田男爵河田子爵其他の贊助を得て去廿日彌生社を借受け武藝を演じたるが川幡皇宮警察長其他警視の人々に於ても周旋の勞を取り有名の劍士梶川逸見、得能、宮部、高安等の諸氏幹事となり午前九時より開會して數番の柔術、劍術等あり催主小松崎古登女と池田の令孃一子長子、敏子、敬子等薙刀、鎌等の形の仕合あり深窓妙齡の女儼然として能く其法を演ぜられしは感服せり又歸山琛、齋藤晴信の二氏眞影流の形及眞劍仕合あり他流の諸士百餘名の勝負有て頗る盛會、來賓は林友幸、渡邊昇、楫取素彥、柳澤保申、松平信正、高崎男爵夫人令孃大鳥夫人、勝伯爵夫人其他華族紳士等百餘名なりき。

調和青年同盟會

誰れか青年を以て破壞者なりと云ふ、眞の青年は大ひある改革者にして亦た强き保守黨にてある也、見よ、自由派の老紳士三分五裂し、聞くだに忌わしきの情實を以てさま〴〵に相別るゝの時、又彼の嘗て愛國公黨論を天下に揚言し幾多の有情男子をして哭泣せしめたる板垣君すら、今や或は府下に於て其結黨式を行はんとするに至れるの時、青年自由黨の六團躰は相合して調和者となり、惣べての自由派を結びて元の一黨たらしめんとす、嗚呼その志望の何んぞ潔美ある、此に於て眞青年の眞面目を得たりと云ふべし。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

傭を作るもの後なし

孔子云く、初めて傭を作るものは夫れ後なからんかと、蓋し人靈を害するがゆえ也、吾人嘗て活人畫の流行せんとするを見て憮然長歎せり、然るに之れ幸はひにして世人の好尙に適せず暫らくにして絕えたるが、今や人類を見世物にし其肉貌の美醜によりて品等を定めんとするものあり、之れ斷じて輕々視すべきの事にあらざる也、杜鵑の一聲も能く亡國の兆を歌ふと云へり、天下亂離の機實に寸毫の間だに存することを思ふときは、彼の美人共進會の如きものゝ堂々東京府下に公行せられんとするは實に道の爲に慟哭すべきの事と云ふべし、

故に吾人は本誌前號の表葉第一面に於て之を切言したり、然るに其日直ちに左の如き書面を送り來れるものあり、

拜啓陳ば本日御發行の女學雜誌第二百九號咄々大怪事と題する記事は事實相違且つ不都合の廉甚だ多く殊に慈善の二字を冒し云々とは妄も亦甚しき次第に付次號の誌上に此全文を掲げ全項を抹殺有之度候也

美婦人品評會慈善市幹事

故に吾人は亦直ちに左の返書を送れり、

來書確讀、女學雜誌第二百九號咄々大怪事の記事中、記事に事實相違、不都合の廉、多妄の事有之由、何如なる事が事實相違に有之候や三府八縣の美人を集る趣は普ねく廣告被遊候事にあらずや、次に不都合とは何如の點に候や事實に相違ある時は速に正誤可仕、事實に對するの意見は弊社の自由に主張し得る者なれば此點に不同意あらば十分駁論を乞ふ、最后に多妄とは何如の事に候乎慈善の二字を冒すと云々は現に正誤申込の文章にも慈善市の名稱有之次第に候はずや、畢竟事實を相違するや否やを窮めずんば其上の議論は無效となるべきに付此點は速に精報有之度候、次號には更に細かに論述し十分に意見吐露致度に付成可早く回答を待つ也不一、

然れども今日迄未だ返書を得ず、吾人は實に如此き營業の行はれんとし亦た其行はるゝを斥くるものゝ少れなるを見て、歎き止むこと能はず、然れども每日新聞は尤も強く之を責め、江湖新聞も亦大に之を責め、經濟雜誌も苦々しく之を罵り、此等義人の聲天にひゞくは唯一つの慰めにてある也。

慈善有志靑年諸君に謹告

大坂の人楠林達氏なるもの懇篤の書面に併せて、右の如く題したる左の如き廣告文を送り來り、本誌上に於て廣く有志の靑年に轉告せんことを委賴せらる、吾人は未だ其精しきことを知

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

悉せずと云ども、其主旨の極めて美なると、本誌を其善業に使用せらるゝとの甚はだ忝けなきとを謝し、左に其全文を掲ぐ、

奈良縣下十津川の天災に因て其住民の慘狀は既に諸君の知らるゝ處なり其罹災者中我最愛する故鄕を去て遠く北海道に移住せし者の心中如何ぞや就中靑少年に於てをや以前は學窓に在て黽勉せしを今日は鋤を持ち鍬を握り極寒烈風を凌ぎ活計の途を立つるにあらずや朝廷之が輩に敎育を施行するに汲々たりと雖も未だ其果全からず又世人の之が爲めに財を惠投するもの稀なり生等貧且賤なりと雖ども感慨悲嘆に堪へず因之此可憐なる靑少年の爲めに奮て發起人の任に當り廣く世の少年諸君の贊成を仰ぎ一は以て敎育費中に一は以て文之友百冊を寄送惠與し以て敎育の一端に供せんと欲す慈善有志の靑年諸君よ幸に左の諸項を了知の上一臂の力を添られんとを生等希望の至りに堪へざるなり

一贊成諸君は所住氏名を詳記し左記の處へ申し込まる可し

大阪市南區塩町三丁目　文友社
同西區江戸堀下通五丁目
同宇和島橋南詰東へ入　楠林逵

一贊成諸君は每月十日迄に廿三年二月より廿四年二月まで向ふ一ヶ年の間每月四錢宛を楠林に迄惠送を乞ふ希くは數月分前納あらんとを(郵券代用諾)

一贊成諸君より惠送さるゝ金員及氏名は文之友及其他の諸新聞を以て報告す可し文之友百冊の代價(但し同誌は文友社々主の特志を以て半額以下に減額するとを溛諾せられし)及北海道廳迄の遞送費を引去り其過餘金は敎育費補助として送付する也最も委細は文之友其他の諸新聞を以て報告す可し

一贊成諸君の住所氏名は姓名簿に記し北海道廳に送付し永久に保存せしむ

一前記一ヶ年の後は景況に應じ存廢を決す

一來る五月より廿四年二月まで贊成人の數に因て女學雜誌百部を寄送す

一文之友は二月より今日に至るまで滯りなく送付せり移住民の少年輩は同誌を喜こんで讀み智育の助けと成りたる由を移住民總代より報知せられたり

發起人總代　楠林逵

而して、本社の如きは女學雜誌を寄附するとを以て贊成の意を表せんとを希望する也。

廢娼記事

●東京廢娼會　兼て廣告ありたる如く同會の發起會を去廿二日午后四時より明治女學校に於て開會す、加藤弘之、江口襄、松田秀雄、島田三郎、小島官吾、湯淺二郎、植村正久、伴直之助、木村駿吉、渡瀨寅二郎、渡邊泰、吳文聰氏を初めとし凡そ三十七名ほど集會し、其他止を得ざる事故ある由にて欠席せられたる元良勇二郎、大西祝、其他諸氏は皆一々事由を記して斷はり書を送られたり。斯て湯淺二郎氏を議長として加藤弘之、島田三郎、江口襄、其他諸氏の廢娼方法に關する演說あり、后ち逐條會議し、左の三條を確定す。

本會は娼妓公認の制度を廢せんとを目的とす此目的を遂ぐる爲に相應の義務を盡すものを會員とし、其主旨を贊成するものを贊成員とす

會員中より委員十五名を擧て平常の事務を托す

而して左の九氏を細則原案起草者とし、追て年會を開きて之を議定し且つ委員を撰擧するよし也。

細則起草委員

委員長、島田三郎。飯野吉三郎、森林太郎、江口襄、植村正久、湯淺二郎、小島官吾、伴直之助、巖本善治

●廢娼壯年義會　去十九日同會の議事會を開き、左の五條を議定したり

一　山縣總理大臣に委員を遣はして其意見を叩く事

二　板垣伯の上京を迎へ演說を委頼する事

三　會費輕減の事

四　路傍演說をなす事

五　外山正一氏を推し其廢妾及娼妓公行を禁ずるの建議を爲す事

斯て、靑木、入江、河原、長島、野條の諸氏を委員に撰定し同時石島良三郎氏來會し尤も慷慨なる勸告を爲されたり。

●モリス氏の義捐　此頃ろ米國より來遊せるモリス氏の夫人は目下の廢娼運動を特の外に贊成し、金二十五圓を巖本に托し其の最良と思ふの使用方に用ひんとを委頼せられ、尙米國に歸着の上は遙かに應分の助を爲すべしと約せられたり。

●石島良三郎氏　は過日上京し群馬に於ける廢娼運動の打合を爲し數日にして歸國ありぬ、聞く所によれば上毛靑年聯合會は知事の此度の指令を以て不滿足となし再三第一第二の部長に其發令の理由を質問したれども二部長ともに其理由を知

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

らずと云ひ且つ一個人に於ては廢娼論を執ると答へられたる由、而して警部長には日々訪問すれども病ありとして面會なきにより最早質問の手立を盡したるものとなし、今後は知事に建議し且つ其意見を叩き、更に內務大臣に向つて知事が縣下の輿論を全く採用せざるとを訴へ出んとて、目下大ひに計畫中の由也。

●存娼的受賄者　上毛に廢娼論猛烈なるに際し遊廓より群馬縣會議員に賄賂を送り、尙ほ其議員の手を通して東京府下の各新聞社に若干づゝの金を送りたる由、其實證ほゞ相分りたるに付近日其證跡を暴露するとあらん。

●島田三郎氏の事　群馬縣會の議員及大坂府會の議員は改進黨員の集會に於て島田三郎氏を惡所に誘引し恥を與へんとしたるに付き、氏は大に憤慨して思はず之を連打したり、二議員之を不平とし告訴せんとすと云ふに付氏は大ひに之を可とし警視の前に於て其手續を述べて公然永久に其筆記を遺すべしと云はれたるが、二議員は遂に其儘に止みたる由、島田氏云く二十年來我知らず思はずに暴行を加へたりと東京廢娼會の席上に於て自白せられたり。

●琉球娼妓　琉球より娼妓を輸入したるものあり只だ好奇に乘じて人を惡に誘はんとするものにして娼妓公許の害いよ〳〵甚しと云ふべし。

女報

○女官の所得稅　本年度麴町區役所に於て調査したる女官の所得稅上納者は室町淸子、高倉壽子、柳原愛子、千種任子其他四十四名なりと云ふ。

○養育院慈善會　貴婦人令孃の組織に係る養育院慈善會は去る廿五日より三日間芝彌生社に於て開會せられたり。

○婦人脩身會　は西村茂樹、平尾光子、棚橋絢子等諸氏の發企にて專ら婦人間に行はるゝ弊風を矯正するの目的なる由にて去る廿日皇典講究所に於て其第一回を開き谷干城、南摩綱紀、西村茂樹等諸氏の談話ありしと云ふ。

○華族女學校運動會　華族女學校長西村茂樹氏は芝離宮を拜借して去る十九日教官及び生徒三百余名と運動會を催ふしたり。

○婦人衛生會　來月三日午後一時より共濟會に於て總會を開き多田貞一郞、櫻井郁次郞、芳賀榮次郞、加藤秀麿等の諸氏に演說を請ふ由。

○日本矯風同盟會　同會は去る十八日午後三時より神田錦町廿一番地佐々城豐壽氏の宅にて開きたり當日臨會したる人々は上毛青年聯合會石島良三郞、北總禁酒會湯本喜一郞、北海禁酒會伊藤一隆、廢娼壯年義會平野善太郞、東京禁酒會津田仙、池田次郞吉、婦人白標倶樂部佐々城豐壽、巖本かし、潮田ちせ、志村貞、少年克己軍根本正、中川永輝、一個人の資格にて安藤太郞、平岩恒保、植木枝盛、佐々木本支の諸氏にて議事終りたる後錦町三河樓に於て懇親會を開き卓上根本正、安藤太郞、植木枝盛、佐々城豐壽諸氏の演說ありて頗る盛會なりき。

○アッケルマン孃　仝孃は去る十六日來神せられ仝夜は神戶教會堂に於て催せる組合教會兵庫部會春季親睦會の說教會に於て說教あり十七日夜は仝會堂に於て神戶婦人禁酒會の催にて禁酒演說ありたり兩夜共譯演は大賀壽吉氏なりし尙仝孃は廿一日夜多聞會堂に於て婦人のみの集りを催ふされ又都合によりては今一二度禁酒演說をせらるゝよし（神戶通信）

○大坂師範學校の女子部　大阪尋常師範學校は本年度より創設したる女子部に於て昨今は已に授業を始むる筈なりしも右生徒の寄宿舍に充つべき舊學務課跡の建物に大分の修繕を要せし爲めに追々遷延し居れども來る五月一日よりは多分開始するに至るべしと云ふ。

○婦人議員となる　英國にてコブデン孃及コンス孃は去月を以てロンドン市會の議員となれり右兩人はサンダルスト孃と共に昨年撰擧せられし事を吾等は知る、然るに爾後サンダルスト孃に敵して撰擧區を爭はんと欲する人ありて未た議員たるを得ずされどコブデン、コンス兩孃は撰擧後十二ヶ月間反對者なきが爲め今度愈議員となりロンドン市會に列する事となれり。

○女丈夫　タルメージ夫人は有名なる說敎者の妻なり其家內の財政は凡て一手に引受け其夫に關する事務を理し且銀行の總裁を爲し居る由。

○クンナン夫人　同夫人はロシアに在り其夫を助けて著しき働きを爲すといふ、其夫はロシア人民を壓制の苦界より救はん爲め力を盡し居る人なり其働の爲め同夫人は魯語の翻譯を爲し或は記錄を請書し或は證據物件を取調ぶるなど非常に事務に長け且人望ある婦人なりといふ。

○女子國會に入る　印度の第五回國會に代議士たりし婦人はパンドイタ、ラマバイ婦人を始めとして十人なりき十人の者正當の撰擧を經て議員に加はりしが其演壇に立つ時に當り議場の人心洶々たりしされど婦人の代議士に關する事柄は皆都合よく決議せり。

週報

○官令　二十一日官報を以て去月廿八日に裁可公布せられたる法律第廿八號民法中財產編財產取得編債權擔保編證據編同廿九號にて民事訴訟法を發布せらる

○宮廷　十八日天皇々后兩陛下京都御發輦御發輿あらせらる●十九日皇后陛下春日神社若艸山手向山三月堂二月堂大佛殿等へ行啓あらせられたり同日天皇陛下には吳港に御安着遊ばされたり●二十日皇后陛下櫻井へ行啓

○政治　十五日愛國公黨の人々は淺草鷗遊館に會議を開きたり●十五日より鹿兒島に於て開會したる九州同志會は十八日を以て閉會したり●十八日內閣會議に山縣、山田、大山、榎本、後藤、青木、岩村の各大臣參集せり

○外交　匃牙利國の總理大臣チスザ氏辭職してスサパリー伯新內閣を組織せり

○會社　十九日日本圖書會社は江東中村樓に於て懇親會を兼れ開業の祝宴を催ふせり

○雜報　二十日東京皇典講究所に於て二府十一縣神道有志會を開けり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地　**東洋英和女學校**

廣告

第三回　懸賞問題

甲。理想紳士の資格

右資格を點數づけに爲すと、例せば剛英を何點、純潔を何點、何業を何點、信切を何點とする如くに點し、合して百點と爲すやうに計算する事。右答文は必らず女性より寄せらるべき事。

乙。理想佳人の資格

右資格を點數づけにする事、前例の如し。但し右答文は必らず男性より寄せらるべき事。

右兩つとも、其品性を二三字にて記し悉くす事、たとへば剛英と云ひ文學と云ふが如く極めて短簡にて差支へなし、左れど一々述釋理解を附するときは更に可也、但だ一篇の答文本誌二頁以上に超ゆ可らず。

右答文寄送、五月十七日（第三土曜日）〆切。

上點　婚姻論　二冊　　中點　婚姻論　一冊

下點　猫と鼠　一冊

恥かしくて實名を洩せぬ方もあれば紙上には雅號を載せ可申。然し本社丈けには御洩し下さられば賞品の送屆けに困ります。

◉詩學專門　**通信敎授**

詩學振興ノ爲メ大ニ林黨ヲ海內ニ募ル
郵券貳錢送附次第規則ヲ呈ス

陸奧國弘前白石町六番地　**大日本天狗詩林**

●**京濱基督信徒聯合婦人大祈禱會**

來る五月三日（土曜日）横濱海岸百六十七番會堂に於て開會す

午前十時より
午後二時より

主意（エペソ五〇一、默廿二〇十七、）

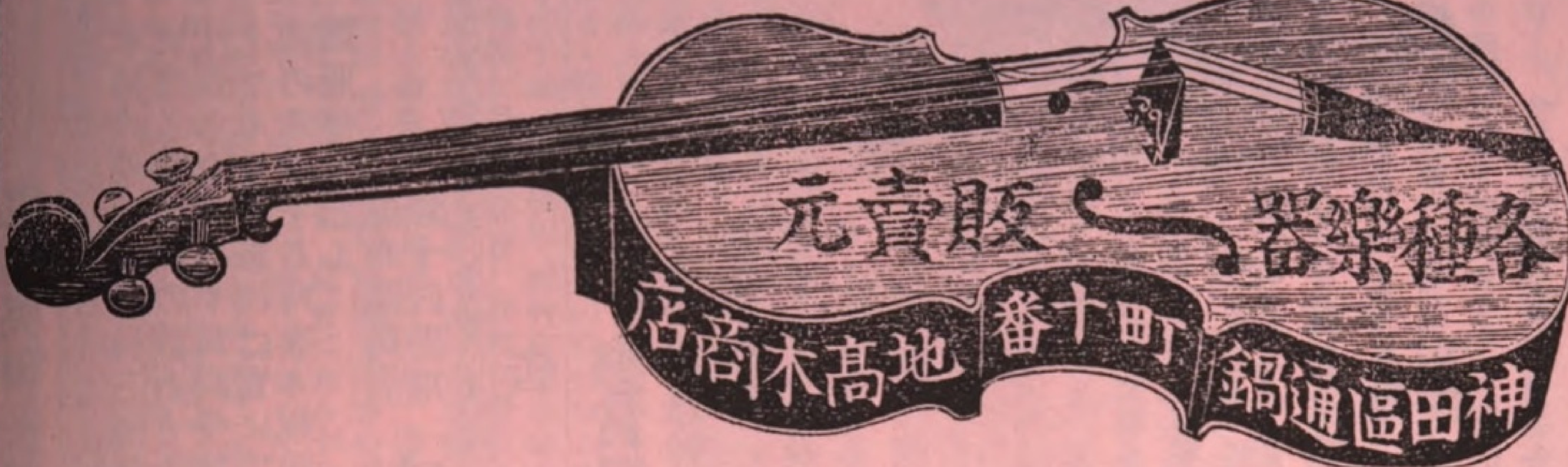
小兒科診察時間改正

從來ノ小兒科外來患者診察時間午前九時乃至同十一時ヲ改テ午前八時乃至十時トス

明治二十三年四月

本鄉元富士町　**醫科大學第一醫院**

遞信省認可



樂器着荷廣告

弊店儀兼て歐米へ注文致置候

ピアノ
オルガン
ヴワイオリン
笛、紙腔琴
音樂書籍等

着荷致し候に付定價を改正し就中オルガン。ヴアイオリン。等は從來の**三分の一**に販賣可致候間御一覽の上御購求下され度伏て是祈る

静岡縣濱松
樂音舍製風琴

右は近頃諸器械を設置し凡て歐米と異なるなき品を製するに至れり

附伸今回內國勸業博覽會へも出品致し候間品質如何は同會にて御覽下され度候

一金十八圓より
一金百二十圓迄 **各種**

和製
ヴアイオリン
一金四圓より
一金八圓まで **各種**

諸樂器深切に御直し可致候

社告

新刊書籍

農學士寺尾熊三君著
植物學
全一冊大本五十二頁
定價十二錢郵稅二錢

百花咲らひ葉青く茂るの時、恰かも是れ植物學を修むるに最好の時なり、寺尾君特に女流獨學の爲に尤も平易簡略に植物學の大躰を講述ありぬ、西洋の婦人は植物を採ねて標本を造ることを以て一の樂しみとするもの多し、至つて面白く且つ價多きの樂と云ふべし、此書則はち如此き婦人及び最も早分りに植物學の大躰を知らんとする人々には最好至適の書ならんか、故に今の春時に當り特に讀者の一讀あらんことを望む

女學雜誌社

成立學舍女子部別科設置女生徒募集

本部ハ是迄幼年科本科高等科高等師範科ヲ教授シ來リシ處今般更ニ永ク修學シ能ハザル者ノ爲別科ヲ設ケ左ノ學課ヲ教授ス有志者ハ至急申込ムヘシ

(學課)裁縫和漢學習字算術育兒法家政○但右學課ノ內望ノ課目ノミ專修スルヲ得○入學試驗ナシ

東京駿台袋町
私立 **成立學舍女子部**

發行所
東京麴町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社

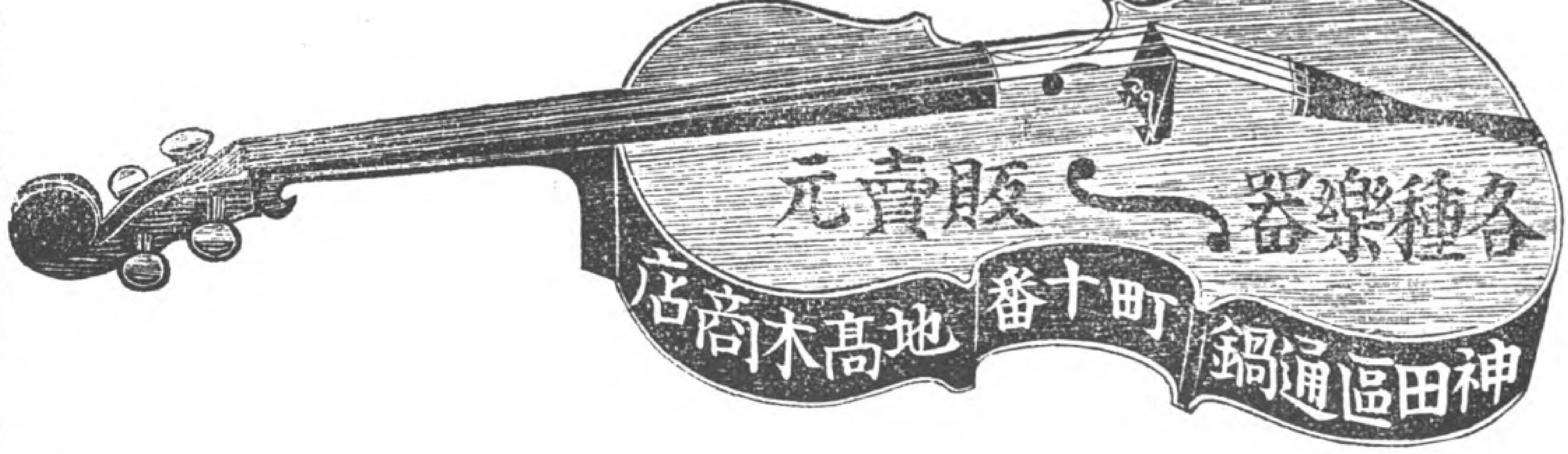
編輯兼發行人
東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留
巖本善治

印刷人
東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留
森田豐

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可



樂器着荷廣告

弊店儀兼て歐米へ注文致置候

ピアノ
ヲルガン
ヴワイヲリン
笛、紙腔琴
音樂書籍等

着荷致し候ま付定價を改正し就中ヲルガン。ヴアイヲリン。等い從來の三分の二に販賣可致候間御一覽の上御購求下され度伏て是祈る

靜岡縣濱松
樂音舍製風琴

右ハ近頃諸器械を設置し凡て歐米と異なるなき品を製するに至れり附伸今回内國勸業博覽會へも出品致し候間品質如何ハ同會にて御覽下され度候

金十八圓より
金百二十圓迄 各種

和製
ヴアイヲリン
金四圓より
金八圓まで 各種

諸樂器深切に御直し可致候

社告

新刊書籍

農學士寺尾熊三君著

植物學

全一冊大本五十二頁
定價十二錢郵税二錢

百花咲らひ葉青く茂るの時、恰かも是れ植物學を修むるに最好の時なり、寺尾君特に女流獨學の爲に尤も平易簡畧に植物學の大躰を講述ありぬ、西洋の婦人は植物を採ねて標本を造るとを以て一の樂しみとするもの多し、至つて面白く且つ價多きの樂と云ふべし、此書則はち如此き婦人及び最も早分りに植物學の大躰を知らんとする人々には最好至適の書ならんか、故に今の春時に當り特に讀者の一讀あらんとを望む

女學雜誌社

成立學舍女子部別科設置女生徒募集

本部ハ是迄幼年科本科高等科高等師範科ヲ教授シ來リシ處今般更ニ永ク修學シ能ハザル者ノ爲別科ヲ設ケ左ノ學課ヲ教授ス有志者ハ至急申込ムヘシ

（學課）裁縫和漢學習字算術育兒法家政〇但右學課ノ内望ノ課目ノミ專修スルヲ得〇入學試驗ナシ

東京駿台袋町
私立 成立學舍女子部

發行所
東京麴町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社

編輯兼發行人
東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留
巖本善治

印刷人
東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留
森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY